



TDC

東京歯科大学同窓会会報

Tokyo Dental College Alumni Association

NO.388 2012年10月号

目 次

グラビア ふるさと自慢

会員往来

巻 頭 言	1
地域理事の声	2
お知らせ	3
重点事業へのアプローチ	4
会 務	5～8
理事会のうごき	9
東日本大震災対策部会	10～11
保 険	12～15
渉 外	16
学 術	17～18
母校だより	19～23
支部のうごき	24～36
クラス会だより	37～39
すいどうばし	40～43
庶務日誌	44
逝去会員	45
追 悼	46
投稿規定	47
へんしゅうこうき	48

東京スカイツリーの街

墨田区

私の生まれ育った地域が、最近なにかとテレビや雑誌に登場します。

2012年5月22日、東京タワーに次ぐ新しい電波塔として建設された東京スカイツリーが、ソラマチタウンと共に観光・商業施設としてオープンし、連日多くの人で賑わっています。私はスカイツリーの建設期間中週に一度業平橋駅を利用して、日々少しずつ高くなっていくのを見るのがとても楽しみでした。途中経過はもう二度と見ることは出来ないため、その頃からすでにたくさんの人が写真を撮りに来ていました。

スカイツリーは江戸伝統工芸と最新技術がコラボしていて、634mという高さを支えるために五重塔などと同じ心柱制振という構造で地震の揺れを軽減しているそうです。夜になるといつも楽しませてくれる[粹]のブルーと[雅]の紫のライトアップ



には、1,995台のLEDライトが使われています。[雅]の紫色はこのために特別に開発されたそうです。スカイツリーの中では、銀箔、金箔、江戸切子、押絵などの伝統工芸の技術が生かされたデザインが楽しめます。[切子]というのはガラスの表面を彫り細工を施す技術のことで、代表的なものに江戸切子と薩摩切子があります。東京スカイツリーのそばにある[すみだ江戸切子館]では、この伝統工芸を体験できるそうです。

また、以前は浅草周辺のみを走っていた人力車が浅草とスカイツリー

を結ぶようになり、吾妻橋のたもとにあるフラムドールなども紹介しているようです。フラムドールは1989年にアサヒビールが燃え盛る炎をイメージして建てたものですが、その色と形から「う〇こビル」なんて呼

ばれ、もう20年以上も親しんでいる私たち墨田区民にはあるのがあたりまえの存在です。

ソラマチタウンに沿った道には人工河川ができ、噴水もあり涼しげです。スカイツリーの脇には北から南

にかけて大横川親水公園があり、子供達が遊ぶ船や花壇が綺麗になりました。

今後もスカイツリーと共に成長していく街であってほしいです。

(平成9年卒 小貫飛鳥)



会 員 往 来

東京歯科同窓は9,000人近くおりますが、全国各地でいろいろな分野で活躍しております。“会員往来”では、同窓会員で歯科以外の分野でも活躍されている方を紹介しています。今回は、四国小豆島の地で、農村歌舞伎に取り組む昭和56年卒樋出 誠先生を紹介します。この夏、渉外担当理事である佐々木眞澄先生（昭和58年卒）が小豆島に立ち寄る機会があるとのことで樋出先生にお話を伺う機会を作っていただきました。

東歯で小豆島と言ったら『樋出』との話を耳にしたことがあります。今回、私は小豆島を訪れる機会があり、先生の診療室に訪問し、またご夫妻と、親しく美味しいお刺身をつまみに、お酒を呑み交わしながらお話を伺って参りました。

小豆島は、瀬戸内海で淡路島に次ぐ二番目に大きな島です。香川県の高松港、本州の岡山港よりフェリーでそれぞれ約1時間の距離に位置し、オリーブ色の海に浮かぶ自然に富んだ観光地としても有名な島でもあります。その周囲は約126km、人口約31,000名、島の産物としては、オリーブ、醤油、素麺、佃煮、胡麻油等が全国的に有名です。島の南東部、壺井栄の『二十四の瞳』の舞台として有名な分教場の岬への入口に草壁港があります。そのフェリー乗り場のほど近くに、今回ご紹介する樋出 誠先生の樋出歯科医院があります。

先生のご一家は、お祖父様の誠道先生（大正10年卒）、お父様の誠詢先生（昭和22年卒）ともに東京歯科大学卒業と、誠先生は東歯の三代目であります。奥様の敦子先生（昭和60年卒）も同窓で、同じ歯内療法学講座内での



小豆島より草壁港を臨む

ご結婚だそうです。考えてみれば、ご祖父様の大正時代に、この島から東京歯科大学によくぞ進学されたものだと感心もさせられる、樋出家は小豆島の名家であります。お父様の誠詢先生は、ご自身の「ヒノイデ」名前がついたラテン語名の貝があるほどの、自然科学、特に貝の研究には精通された先生だったそうです（診療室の2階には、その蒐集物で埋め尽くされた部屋があり、象の



昭和63年・保存第一講座にて



今年8月・診療室にて

菌だの、動物の骨だの、人の血管標本だのまるで博物館のような極めて珍しい物が沢山ありました。

今回ご紹介する樋出 誠先生も、多才、多趣味であり、その気さくな性格と、学生時代より酒豪でも有名であり、お酒で「撃沈」されてしまった思い出のある方も少なからずいるのではないかと思います。先生のお人柄

はここで細かく紹介するよりも、インターネットで『ひのひの』と検索されると、ご本人のホームページでその詳細が紹介されておりますので、是非、ご一読頂きたいと思います。今回、ご紹介して頂く『農村歌舞伎』には、平成9年頃より特に関わりが深くなられたそうです。

島の歌舞伎役者

樋 出 誠 (昭和56年卒)



満員御礼



白浪五人男・浜松屋の場：
弁天小僧菊之助



白浪五人男・浜松屋の場：
弁天小僧菊之助

小豆島には約250年以上も連綿と続く農村歌舞伎(地芝居)が継承されています。現在では上演されている舞台は中山地区と肥土山地区の2カ所だけですが、この小さな島にも拘わらず、以前はなんと島内33カ所の集落に舞台が建てられ芝居等が上演されていたとの資料が残っています。瀬戸内に浮かぶ小豆島はかつて海運の要衝であり、上方の文化と密

接な繋がりがあったことに加えて、江戸時代には天領だったことから年貢もそれほど過酷では無く、また領民に対する締め付けや規制が比較的緩やかだったことも大きな要素のようです。事実、近年の町おこしのような地芝居は別として、全国に現残している農村歌舞伎は天領だった地区が圧倒的多数であるとのこと

中山の舞台は春日神社の境内に立てられた木造茅葺きの小屋で、人力の回り舞台や、花道、セリ、スッポンといった本格的な装置を備えており、国の重要文化財に指定されています。明確な建築年代は判りませんが文政六年という落書きが発見されていることから、1823年には既にこの舞台上で上演されていたことが判明しています。舞台は社殿と向き合っ



仮名手本忠臣蔵 4段：高 師直

た形で建てられており、その間の境内が棧敷となっており、神様に奉納する芝居を観客も一緒に楽しむという形になっています。

実は私は小豆島でも上述の2地区以外の出身であった為、この島に農村歌舞伎という伝統芸能が存続しているということを全く知らなかったのみならず、ロックバンドを組んでいたりと洋楽系の趣味だった為、歌舞伎など全く関心も無く、プロの大歌舞伎でさえ見てみようと思ったことすらありませんでした。それがひょんなきっかけで、友人から中山の農村歌舞伎に出演してみないかと誘われ、宴席でお酒も入っていたせいもあって話のタネにと引き受けたのが始まりでした。初舞台は「忠臣蔵外伝・土屋主税」という芝居で、吉良家の隣家の旗本土屋候の家臣という役でした。脇役ながらも長台詞（15年たった今でも暗誦できます）もあり稽古を始めたその時から、世の中にこんな面白いことがあったのかと見事に嵌まってしまいました。

そして次の年の「白浪五人男・浜松屋」の弁天小僧菊之助を皮切りに1幕（年にもよるが大体4～5幕上演）の主役級をずっと演じてきまし



仮名手本忠臣蔵 6段：お萱,
NHK ホールにて

た。役柄としては女形おんながたをこなせる役者が少ないことから、小柄で華奢で声のトーンが高い私にはどうしても女形が割り振られがちですが、実は芸域が広く、老け役、敵役、立ち役なんでもこなせます。意外に思われるかもしれませんが敵役を演じるのは大変楽しいです。敵役がヘタレだと芝居が壊れてしまうので、如何に憎々しげに立ち振る舞えるかが芝居の鍵となります。嫌われてなんぼの役ですので、芝居を終わって観客などから「樋出先生って本当に性格悪いんじゃないの？」なんて軽口を云われると、「最大の讃辞をありがとう」と心より喜んで答えます。また「義経千本桜・鮎屋」で長女と「浜松屋」、「袖萩祭文」で次女と親娘共演できたのも楽しい思い出です。

平成16年に天皇皇后両陛下が小豆島に行幸啓なされた折には、中山の舞台においでになられ、演目は子供歌舞伎の白浪五人男の場だったのですが、私も「付け打ち」（舞台の袖に黒子の衣装で座って場面に合わせて柝きを打つ）として天覧の舞台に上がったことは一生の記念です。終演後、棧敷に降りて役者の子供達や舞台師等と一緒に整列して、両陛下から一人一人にお言葉を賜り感激いたしました。両陛下は本当にお優しく、「民を慈しむ」というようなオーラが感じられました。

また平成17年には渋谷のNHKホールで開催された文化庁主催の全

国ふるさと歌舞伎フェスティバルに初日のトリとして出演し、衛星放送で放映されました。演目は「仮名手本忠臣蔵・勘平腹切りの場」で老婆のお萱の役で出演しましたが、ホール満杯の観客の前で芝居をするのは最高の気分でした。

そして昨年度のアカデミー賞を総なめにした、映画「八日目の蝉」にも農村歌舞伎のシーンが収録され、「重ノ井の子別れ」という芝居で女形おんながたの私が演技している場面が、時間は短いですが大寫しで登場しています。テレビやラジオに出る機会はまあそれなりにあるとしても、銀幕に出演できる機会はまずないことで、大変貴重な経験でした。宜しければDVDをレンタルして御覧になってみて下さい。

さて歌舞伎を観る人は星の数程いれど、歌舞伎を演じたことのある人は本当に稀少でありましょう。歌舞伎の初体験イコール役者でのデビューという変わった経歴の私ですが、本年は「忌み」がかかっており（昨年11月に母が逝去）奉納歌舞伎には出られません。農村歌舞伎に携わって15年が経ちましたが、これを機にそろそろ引退し後進に席をゆずろうと決意しており、その締めくくりに総集編のような気持ちで本稿をお受けした次第です。

アアア、十五年は一昔。・・・夢だ、夢だあああ。



重ノ井子別れの場：重ノ井

歯科医政と同窓会



副会長

加藤木 健

このたび、矢崎秀昭会長のもと、東京歯科大学同窓会副会長に任命されました、昭和46年卒業の加藤木 健でございます。昨年までは神奈川県支部連合同窓会の会長をつとめておりました。総務部厚生、広報と、梅村副会長とともに渉外を担当しています。矢崎会長を中心に本執行部は「より強い会員との連携のもと、組織力の増強につながる未入会者対策と母校との連携、支援の強化」を最重要課題として事業展開を行っています。

母校で4月より「さいかち坂校舎」にて新入生の授業が始まり、「水道橋校舎」では口腔外科診療室が完成し、さらに高度歯科医療センター（口腔インプラント科）も開設されました。また血脇記念ホールの入る新校舎の建設も着々と進んでおります。

そして今年、我々を一番驚かせてくれたのは、第105回歯科医師国家試験において、全国で断トツ第一位の合格率を勝ち得てくれたことです。この成果が得られたのは、伝統あるわが校の学術研究と教育制度の確かさによるもので、今後もますます発展してくれると確信してお

ります。また臨床歯科診療の分野においても、さらなる診療設備の充実をおこない、わが校の優秀な人材を駆使して臨床歯科の発展を図り、日本の歯科診療をリードする立場を不動のものにしていただきたいと思います。

同窓会ができることは、さらに組織力をアップさせ母校に対して強力な支援をすることです。現在、私立の歯科大学は、大学の存続を懸けて、デフレ経済の中、スーパーマーケット、電気量販店なみのダンピング合戦や海外の学生の招致などを繰り返しております。しかしながらはたしてそのような方法で大学の存続が出来るのでしょうか？入学者の減少、経営不振の原因は世界不況のなか、何の的確な政策を打てない日本政治にあるのではないのでしょうか。大事なのは、一刻も早い景気回復であり、デフレからの脱却です。財務省は約1,000兆にも及ぶ赤字国債の金利負担の増加を恐れ、当分の間、円高、増税路線を継続しようとしています。現在の政治の混乱のなか、政策により国民の生活が大きく左右されていると強く感じています。

歯科界の置かれている状況を打開するには、歯科界の政治力と官僚に物申せる優秀な政治家が必要です。わが校は今までに同窓の中から鹿島俊雄先生、関口恵造先生、浅井美幸先生、井上 裕先生、そして川口 浩先生といった多くの政治家を輩出しています。このうち元理事長の鹿島先生、井上先生は大臣も経験されております。これだけの政治家を出している歯科大学はわが同窓会のほかにはありません。

現職の衆議院議員川口 浩先生は日歯の職域代表として、来年7月の参議院に立候補を予定し、選考に向けて全国を駆け回っています。

また千葉県の白須賀貴樹先生は次期衆議院選挙に自民党から立候補を予定し、当選が確実視されています。

日歯連盟の理事長を務めた、神奈川県の高村 大先生は来年7月の参議院選挙に神奈川県選挙区に自民党公認候補として立候補が決まりました。

これらの先生方を同窓会として全面的に支援し、当選したあかつきには、国政で医療行政の改善に全力を尽くして頂きたいと願っております。それが歯科界の健全化につながり、諸問題解決の近道であると思います。



「東京歯科大学同窓会の発展を願って」

地域選出理事（東京） 早速 晴 邦

本年4月より、東京・さいかち坂校舎において新入生を迎えました。

いよいよ、東京歯科大学は大学の本体を東京に移転する事業が始まりました。

私は、水道橋にて学び、卒業した人間ですので、再び母校が水道橋に戻ってくるということで、ほっとしているひとりですが、千葉県・稲毛において学び、卒業した多くの先生方（私にとっては後輩の同窓の先生方）においては複雑な気持ちを持っておられる方も多いのではと、推察します。

しかし、歯科大学に限らず多くの学校も一時、郊外に移転しましたが、都市部に再上陸又は廃校に追いやられている現状を鑑みると、少子化現象という社会現象に対応する選択肢としてやむを得ないことではないでしょうか。

高齢化に対する国の社会保障問題の先送り等により、医療財政は破綻を来しており、歯科界においては今に始まったことではありませんが、総医療費に対する歯科のシェアの低迷化又歯科医師の需給問題等々、大変きびしい状態というより危機的状況にあることは承知のとおりです。

このような歯科界の状況下、志を以って我が東京歯科大学に入学され、卒業した若き同窓の皆様を同窓会としては、大いに支援していかなければと考えます。

私ども東京地域支部連合会は、連

合会の中でも1,287名（平成24年8月現在）と多くの同窓会会員を有する連合会として、東京都内に在籍する会員の組織として、事業を展開しています。

しかしながら、新入会員の減少により地域支部連合会で一番多くの会員を有する連合会では無くなってしまったという現実にあります。

東京都内のみのが対象となるため、地理的環境によりいろいろな事業も展開しやすいメリットがあります。

事業の内容ですが、学術講演会・保険講習会・会員の厚生事業としてのリクリエーション、また、学術・医療管理・公衆衛生・保険のシンクタンクとしての位置づけとなるフォーラムデスクッションを開催しております。

私がいつも感心するのは、いろいろな委員会の先生方をみているとすべての分野において同窓の先生方は優秀な方がたくさんおられるということです。

また、現在私も地区選出理事ということで同窓会本部に参加させていただいていますが、全国から出られる役員の方と接するにつけ、血縁イジムの東京歯科大学同窓の諸先輩はどなたも人格的にも素晴らしい方々ばかりで感嘆しております。

これからよりよき歯科医療を目指す若きドクターは、素晴らしい先輩方と接触ができる同窓会の組織に

非参加していただきたいと思いますが、そのためには若い先生方に有益な情報を提供し、同じ目線で交流できるチャンスを設けることも大切ではないかと考えています。

現在では、ITの進歩によりあらゆる情報がネットにより得られる時代となり、何も歯科医師会・同窓会に会費を払ってまで入会しなくてもよい又必要がないと考えている方も多くおられると思います

私自身、若い時は内向的な性格もあって、あまり組織に身をおくことについて避けていたように思います。

或る時、先輩の先生により歯科医師会の理事を薦められ、就任してから大変なことも多く経験しましたが、自分の診療所にだけ閉じこもっていた自分が多くの人（先輩・後輩）と知り合うことが出来、世界が変わったように思います。

そのことを思うと、若い先生には一歩前に進む勇気とまた年配の先生方は若い先生方に接し背中をポンと押してあげることが、必要なことのように思います。

そのためには、若き同窓の動向を把握すべく同窓会として情報の共有化が是非とも必要となってきますので、同窓会本部と各地域支部連合会双方が又大学にも協力いただいで行っていくことが、未入会会員の減少に繋がるのではと考えます。

これからも東京歯科大学並びに同窓会が益々発展することを願っております。

お知らせ

理事会より

- 今回の評議員会の開催が、例年より早い11月3日となるため、当日は秋の叙勲褒章の方々の顕彰が間に合わず、春の受章者のみの顕彰となります。あらかじめ、ご了承ください。
- 第40回同窓会主催全国ゴルフ大会は9月27日に開催されました。本号では締切後となりますので、詳細な記事は、次号に掲載いたします。

同窓会事業・行事

- 平成24年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と き 平成24年11月3日(土・祝)
ところ 如水会館(千代田区一ツ橋2-1-1)
- 若手支援セミナー
と き 平成24年12月9日(日)
ところ 水道橋校舎

母校関係行事・案内

平成25年度 東京歯科大学 入学試験情報

入学種別	募集人員	出願期間(必着)	試験日	合格発表日	会場
推薦(指定校含む)	約45名	11月1日(木) ~11月6日(火)	11月10日(土)	11月13日(火)	東京会場(東京歯科大学水道橋本館校舎)
帰国子女・留学生	若干名				大阪会場(天満研修センター)
編入学A	若干名				福岡会場(TKP天神シティセンター)
学士等特別選抜A	若干名				東京歯科大学水道橋本館校舎
一般入試Ⅰ期	約50名	12月17日(月)	2月2日(土)	2月6日(水)	東京会場(東京歯科大学水道橋本館校舎)
センターⅠ期	13名	~1月28日(月)			大阪会場(天満研修センター)
					福岡会場(TKP天神シティセンター)
一般入試Ⅱ期	約15名	2月19日(火) ~3月5日(火)	3月9日(土)	3月12日(火)	東京歯科大学水道橋本館校舎
センターⅡ期	5名				
編入学B	若干名				
学士等特別選抜B	若干名				

※編入学A・Bは、2年次に編入学

重点事業へのアプローチ

－大学との連携・学生との交流－

第44回歯学体成績報告会への参加

(各競技の開催地の同窓会支部からの支援に感謝の言葉がありました)

平成24年9月14日に大学が主催し、千葉校舎の厚生棟におきまして本年度の歯学体(全日本歯科学生総合体育大会・鹿児島大学歯学部が主管校)の成績報告会が開催されました。当日は、歯学体に参加した20の運動部部員が一堂に会して、各部から今年の成績についての報告がありました。優勝は水泳部、硬式庭球部、準優勝は硬式野球部、3位以下は、ボウリング部をはじめ、9つの部が入賞を果たし、総合成績では本学は4位となりました。本年から1年生は水道橋の「さいかち坂校舎」

で修学していますが、各部とも上級生との合同の練習などについて、種々工夫をしているとのこと。報告会ではまず、学長の井出先生から東大の伝統である文武両道を目指して、来季も頑張ってもらいたいとの祝辞があり、さらに各競技において地元の同窓会支部が応援してくれたと感謝の言葉もありました。そして優勝と準優勝のクラブに、学長賞が授与されました。次いで父兄会賞が入賞を果たした9つの部に、学生部長の佐藤教授より授与されました。

その後、同窓会賞が矢崎同窓会会長より、本学代表の歯学体評議員として大変尽力した渡辺知明君(4年

生)に授与されました。

また、本年8月にカナダ・エドモントで開催された「第5回女子野球ワールドカップ」で見事、3連覇を達成した日本代表のマドンナジャパンのメンバーとして活躍した、本学2年の直井友紀さん(栃木県出身)にも同窓会賞が贈られました。

矢崎同窓会会長から、同窓会は学生のクラブの活動を心から支援しており、本年は全国各地で開催された各部の競技会において、その県同窓会の支部長等から、多大なる応援をして戴いたとの挨拶がありました。その後、各運動部の活躍ぶりなど、和気藹々の学生との懇談が行われました。



【第5回女子野球ワールドカップ優勝】
マドンナジャパン! 史上初の3連覇達成!
直井 友紀さん(第2学年) 日本代表として出場!
 (6試合に出場、10打数4安打、2打点、打率.400)

カナダ・エドモントンで開催された「第5回女子野球ワールドカップ」(8月10日～19日)に本学第2学年 直井 友紀(さいかち中央)さんが参加し、史上初の3連覇に貢献しました。
 女子野球ワールドカップは、2004年から2年ごとに開催されており、今回は、カナダ・日本・韓国・オーストラリア・台湾・キューバ・パナマ・ベネズエラ・オランダの各国代表が出場し、直井さんは、打点選手20名に、全選手部門として選ばれ、10試合のうち6試合に出場し10打数4安打、2打点で、打率.400の好成績で、 MVPとして2試合の最優秀選手に選ばれました。

直井は、平常キャンパスで勉強と楽しみながら、毎日朝に歯を磨く「磨」という女子部の朝練チームで練習をしています。
 7月24日、本学校舎の学生食堂で、同窓会支部長と面談したとあり、賞状、謝状、そして、3連覇を成し遂げました。



会 務

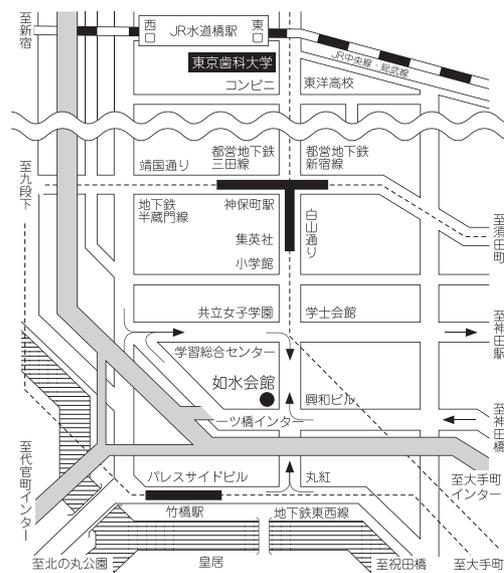
平成24年度東京歯科大学同窓会評議員会 定時総会 懇親会 日程

1. 日 時 平成24年11月3日（土・祝）
2. 会 場 如水会館 2階 スターホール
東京都千代田区一ツ橋2丁目1番1号
電話番号 03 (3261) 1101 （代表）
3. 日 程

区 分	時 間
評 議 員 会	午前10時00分～午後4時00分
定 時 総 会	午後4時10分～午後5時00分
懇 親 会	総会終了後

平成24年度 東京歯科大学同窓会評議員会 (午前10時00分～午後4時00分)

1. 開 会 の 辞
1. 点 呼
1. 会 長 挨 拶
1. 来 賓 挨 拶
1. 議 長, 副 議 長 選 出
1. 議 事 録 署 名 人 指 名
1. 黙 禱
1. 報 告
 - (1) 平成24年度 会 務 報 告
 - (2) 平成24年度 会 計 現 況 報 告
1. 東 京 歯 科 大 学 の 現 況
 - (1) 大 学 法 人 と し て の 課 題
 - (2) 水 道 橋 移 転 と 学 生 教 育 の 現 状 に つ い て
1. 議 事
 - 第1号議案 平成23年度 経常部収支決算
 - 第2号議案 平成23年度 特別会計収支決算（同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金）
 - 第3号議案 平成23年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算
 - 第4号議案 平成23年度 時局対策費積立金会計収支決算
 - 第5号議案 平成23年度 財産目録
(監 査 報 告)



最寄りの駅からの案内図

- 第6号議案 財産（備品）廃棄処分
- 第7号議案 会員資格に係る東京歯科大学同窓会会則の一部改正
- 第8号議案 準会員制度に係る東京歯科大学同窓会会則の一部改正
- 第9号議案 名誉会長に係る東京歯科大学同窓会会則の一部改正
- 第10号議案 同窓会創立120周年記念事業について
- 第11号議案 平成25年度 事業計画
- 第12号議案 平成25年度 入会金
- 第13号議案 平成25年度 会費
- 第14号議案 平成25年度 経常部収支予算
- 第15号議案 平成25年度 共済負担金
- 第16号議案 平成25年度 特別会計収支予算（同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金, 同窓会創立120周年記念事業積立金）
- 第17号議案 平成25年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支予算
- 第18号議案 平成25年度 時局対策費積立金会計収支予算

第19号議案 平成25年度 名誉会員の推薦

1. 協 議

- (1) 東京歯科大学同窓会選挙規則について
- (2) 東京歯科大学同窓会評議員会・総会のあり方について
- (3) 共済制度の見直しについて
- (4) その他

1. 名誉会員推戴式

1. 平成24年度（春）叙勲、褒章受章者顕彰式

1. 閉 会 の 辞

第118回 東京歯科大学同窓会定時総会

（午後4時10分～午後5時00分）

1. 開 会 の 辞

1. 会 長 挨 拶

1. 議長、副議長選出

1. 議事録署名人名指名

1. 報 告

- (1) 平成24年度 会務報告
- (2) 平成24年度 評議員会報告
- (3) 平成25年度 経常部、特別会計、卒後研修セミナー、卒後研修セミナー積立金、時局政策費積立

金会計収支予算

1. 議 事

第1号議案 平成23年度 経常部収支決算

第2号議案 平成23年度 特別会計収支決算（同窓会基金、血協記念基金、共済負担金、名簿積立金、退職積立金）

第3号議案 平成23年度 卒後研修セミナー、積立金収支決算

第4号議案 平成23年度 時局対策費積立金会計収支決算

第5号議案 平成23年度 財産目録
（監 査 報 告）

第6号議案 財産（備品）廃棄処分

第7号議案 会員資格に係る東京歯科大学同窓会会則の一部改正

第8号議案 準会員制度に係る東京歯科大学同窓会会則の一部改正

第9号議案 名誉会長に係る東京歯科大学同窓会会則の一部改正

1. 協 議

1. 閉 会 の 辞

会務アラカルト

平成24年度評議員会

平成24年度評議員会が11月3日（土）に開催されます。今年の評議員会ですが、同窓会機構改革により評議員数が少なくなります。昨年までは支部長、地域支部連合会会長、クラス代表（10学年）、日歯役員・代議員、都道府県歯科医師会会長の先生方が評議員として出席しましたが、今年は地域支部連合会の会員数をもとに選出された評議員の先生方と一県一評議員の経過措置ルールで選出された先生方で、昨年の153名から78名となります。改革案では、当初、地域支部連合会の会員数100名ごとに1名の選出で評議員数は66名と提案されましたが、会員数の少ない地域では評議員会に出席できな

い県支部が出てくることから、経過措置として少なくとも各県一人は出せるようにするというで12名増員して78名になりました。この経過措置は2年間としておりますが、単に2年たったら経過措置が終了するのではなく、その間この経過措置について、そして評議員会のあり方について議論をするということなのです。今回の評議員会では協議題としてご意見をいただく予定にしております。いろいろ建設的な意見が出され、皆さんが納得する方向が見えてくることを期待しています。

今回の評議員会では、第1号から第19号までの議題と3題の協議題を予定しております。会則改正についての議題は3題で、そのうち2題が

若手同窓の連携推進事業に関わるものです。若手推進事業については平成25年から重点的に開始しますが、事業を円滑に運営してゆくための制度作り、そして会則の改定が必要になります。会務検討特別委員会での答申、そして理事会での議論などを経て、評議員会に向かつての事業骨子がまとまりましたのでご紹介します。

若手同窓との連携推進事業の骨子 （背景と重点対象）

若い年代において徐々に支部加入者の割合が低くなるなど近年いろいろな変化がみられています。多くの地域で耳にすることは、「若い人が少なくなった」とか「若い人が会に出てこない」という声です。若い人

が同窓会から離れることは、同窓会にとって大変深刻な問題となります。歯科界にとっても何らかの影響を与えかねません。このようなことから矢崎執行部では、若手ネットワーク委員会をつくり、急ぎ取り組むべき若手同窓との連携推進案を作りました。

若手との連携は幅広い年代の同窓会に対し行ないませんが、制度的には、まず若い世代との連携を深めることに焦点をあてスタートすることにしました。いろいろな若手同窓の動向を見てみますと、卒業の頃、同窓会について認識はほとんどなく、近くに同窓会について熱く語る先輩もなく、“同窓会無意識状態”で何年かが経過し、その後同窓会報と会費請求だけの接点で直接のつながりをもたないまま社会に飛び立ってゆくようです。そのようなことからまず在学時—臨床研修歯科医時代—勤務医時代など『在校生から卒業後5年まで』に焦点をあて、できれば一人ひとりと太いパイプを作っていければと期待しています。すぐに結果は出ないかもしれませんが、何年かすれば必ず実を結び、支部において若い世代から大先輩まで広い年齢層をもって同窓会活動に参加するようになり、同窓会組織の充実、さらには母校の伝統的精神の高揚並びに発展を支える強い基盤ができあがるなど、たいへん明るい将来につながるものなのです。皆様のご理解と協力のもと、できるだけ早く事業展開していきたいと考えております。

（準会員制度）

卒業生のみならず母校の在学学生をもふくむ長いライフスパンで同窓会はかかわっていこうとする基本的な姿勢から、母校在学学生、他校出身の母校大学院生および臨床研修歯科医を同窓会準会員とする制度です。準会員に対する大学からの要望もある

でしょう。また、在学学生からもいろいろな声があがると思います。これらの声に同窓会が応えられるようにするのが準会員制度で、学生時代から同窓会が近くにある存在となり、頼もしい先輩役を演じられればと考えています。会則の上で準会員として記しますので、今回の評議員会では議題として提案いたします。身分については、正会員と同じ会員資格、義務、権能を定めるものではありません。

具体的な内容として、出身地の支部からの応援、県人会やクラブ活動補助、必要情報の提供、セミナーへの招待、臨床見学への協力、エレクトイブスタディへの協力などが考えられますが、まずは制度としてスタートし、大学や大学連携委員会などの意見交換を行いながら一步一步制度を進めることになります。

（新進会員制度）

今までの臨床研修医会員の期間を卒業後5年間までに拡大し、名称を新進会員に改めました。原則本部所属として、卒業後5年間しっかりと本部との連携をとれるようにしていきます。今回の若手同窓との連携推進事業の中心を新進会員におき、歯科医師が臨床に携わって行く上で重要な生涯研修でのスタートの5年間を同窓会が応援していこうとするもので、各種学術事業（若手研修セミナー、セミナーの優待や無料招待）、各種若手ネットワーク事業（臨床見学・支援システム、クラス会〈学年連絡会〉開催、支部ネットワーク担当との情報交流、広報を通じた情報交換など）、若手学年代表者懇談会での意見交換など盛りだくさんの案が計画されています。この間支部連合や、支部との連携もきわめて大切に、出身地登録、勤務した場合の勤務地あるいは開業地登録を行うようにし、地域の支部や地域支部連合会

とのつながりも深めるようにします。

（支部加入時の本部過年度分未納会費のあつかい）

卒業後6年目以降の同窓は、従来通り支部加入義務を有しています。支部加入時に本部過年度分の会費完納を条件とすることがあり、多額になった未納会費の支払い困難を理由に加入しないとといったケースがあり、昨年の評議員会でも議論になりました。

評議員会でのご意見を尊重し、本部過年度分会費の完納を支部加入の必要条件にしないこととし、未払いは個人責任でその後分割でも一括でもよいので払ってもらうことにしました。

（入会金、諸会費の減額）

若い同窓の会費未納率は高いのですが、この原因として収入の少ない時期にしては会費が高いことがあげられております。若き日のいつきの未払いがその後の延々と続く会費未納につながり、その結果同窓会離れになっていくとも思われます。また、本重点事業の一つである新進会員制度において若手同窓にできるだけ支援を行っていく上で、新進会員期間の会費納入率を高める必要もあります。そこで、まず母校卒業時の入会金をゼロ円として、新進会員の卒業後5年間の本部会費を減額します。またこの間、原則本部所属で支部加入が少なくなることも考えられます。しかし一方で支部や地域支部連合に、次に紹介します「若手ネットワーク担当」による若手との連携推進をはじめいろいろご協力いただくことにもなりますので、支部加入推進のため、新進会員として納入された会費収入の3割相当を地域支部連合会に助成する予算立てを考えています。

〔支部における「若手ネットワーク担当」による若手連携促進活動〕

最近では身近に歯科医がおらず、歯科業界にあまり精通していない卒業生も増えてきており、一人ひとりの声に応えられる若手同窓へのサポートが必要となってきます。特に、臨床研修を修了し、在京あるいは地元で勤務医、開業医として活動を始める卒業後10年位までの若手に、地域の先生方と一緒にサポートできればと考えています。

そのための一つの策として考えたのが、各支部にお願いして若手同窓の相談役となっていただく『若手ネットワーク担当』の制度です。地域支部連合会や支部から若い会員の先生を御推薦いただき、若手同窓から寄せられる様々な質問に答えてもらったり、親身になって相談してもらったりをお願いするものです。依頼書が届きましたら、担当者のご推薦よろしくお願いたします。

同窓会創立120周年記念にむかって

今回の評議員会での議題に「第10号議案 同窓会創立120周年記念事業について」を上程し、同窓会創立120周年記念事業を実施する事の承認と「同窓会創立120周年記念事業積立金」特別会計の設立と経常部よりの繰り入れの承認をお願いしま

す。記念事業の内容については平成25年度にはいり準備委員会をひらき、秋の評議員会には記念事業案を提案する予定となります。

東京歯科大学同窓会創立100周年記念誌（1995年発刊）の同窓会年表の一ページを開きますと、『1895年（明治28年）6月16日 高山歯科医学院において第一回卒業式を挙行、卒業生3名、当日有志協議して会則を定め役員を選び、高山歯科医学院院友会を結成』と記してあります。さらに年表には、1954年（昭和29年）に同窓会創立60周年記念大会が開催、1965年（昭和40年）同窓会創立70周年記念祝賀大会、1975年（昭和50年）同窓会創立80周年記念式典、1985年（昭和60年）同窓会創立90周年記念式典、祝賀会、1995年（平成7年）同窓会創立100周年記念とした卒業研修セミナー、囲碁大会、座談会、ゴルフ大会、音楽会の開催があり、評議員会、後援会総会、総会の翌日11月19日同窓会創立100周年記念式典、祝賀会とあります。また110周年では、女性会員による座談会、同窓会長賞の創設などを行ったり、同窓会報に「未来をみつめて」をテーマに、創立110周年記念特集を組むなどしております。

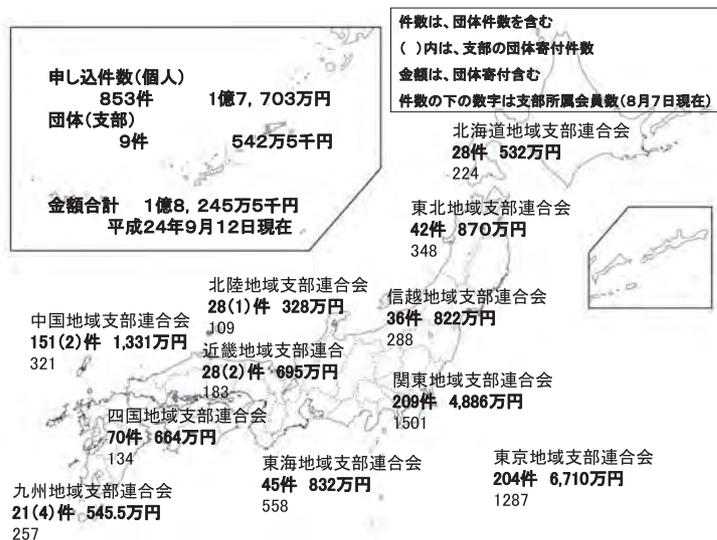
大還暦を迎える東京歯科大学同窓

会、先人たちの熱い志をもう一度見直し、将来にむかって飛躍することを願い是非創立120周年記念を祝いたいものです。

寄付のおねがい

先に述べましたように、3年後同窓会は創立120周年を迎えます。1895年6月16日血脇先生ご尽力で院友会が高山歯科医学院第一回卒業式の後、正午から開催され、ここに東京歯科大学同窓会がスタートしました。血脇先生の想い、志、人間性のすべてが東京歯科大学の今日を創り、母校を卒業した9,000余名の同窓全員にその血が受け継がれているのです。9,000余名の同窓全員が、大学の歴史、伝統、業績、建造物、大学組織、母校在校生と精神的につながっていくことが連携であり、まさにその象徴が来年出来上がる新血脇記念ホールなのです。是非同窓の手で、皆さんのご協力で血脇先生を記念したホールの建設費を寄付したいものです。

現在1億8,000万円です。歯科界をとりまく現状を考えると、目標達成のため各同窓のご負担は大変厳しいことと思いますが、なにとぞ一人でも多くの同窓が、一口でも結構ですのでご協力いただければ目標に大きく近づくと考えております。



理事会のうごき

第4回理事会

平成24年8月25日（土）午後4時00分

於 特別会議室

出席 33名

議長 矢崎会長

会長挨拶

同窓会改革に向けて、特に若手会員の支部未入会について、その解決策を評議員会に示していきたい。

評議員会が間近に迫り、準備のために暑いにもかかわらず毎日のように委員会が行われている。関係各位に感謝する。

水道橋移転も順調に進んでいるが、各大学が学納金を下げる動きが目立つようになり、競争が激化している。東歯としても同窓の支援が必要な時期にきているが、募金の状況が必ずしも満足なものではない。より一層の取り組みを期待する。

地域支部連合会の支部長会が各地で始まり出席しているが、同窓会として支部における活動の重要性を痛感している。地域の支部が十分活動できるように支援していくことが本部の役割と考える。

次期国政選挙には会員が何名か立候補する動きがある。一人でも多くの同窓が当選するよう支援していく予定である。

黙 禱

苫小牧支部・佐々木裕寿氏はじめ5名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

会務報告ならびに承認

1) 平成24年7月18日から平成24年12月17日までの日程を報告。

2) 各部報告

- (1) 総務・厚生部：①逝去会員について規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。②平成24年度会員数調査の報告。③厚生委員会報告。④会費、共済負担金納入延期願いが1件提出され、受理した旨の報告。⑤会費、共済負担金納入免除願いが1件提出され、受理した旨の報告。⑥ゴルフ大会委員会報告。⑦母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑧情報ネットワーク推進会議報告。⑨会務検討特別委員会

について報告。⑩同窓会・会務運営協議会報告。

(2) 会計部：①地域支部連合会学術講演会助成金の支出について2件報告。②支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について4件報告。

(3) 広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセス状況の報告。

(4) 事業推進部：①事業推進部全体委員会、企画会議報告。②学術委員会報告。③ TDC 卒後研修セミナー2012、インプラントセミナー・マスターコースについて報告。④ TDC 卒後研修セミナー2013について説明。⑤インプラントセミナー・マスターコース2013について説明。⑥保険委員会報告。⑦シンクタンク委員会報告。⑧若手ネットワーク委員会報告。

以上の会務報告について、全て承認。

各地域選出理事報告

北海道・佐藤理事、東北・高橋理事、東海・太田理事より地域の活動について、書面にて報告。

協議事項

- (1) 若手同窓連携推進事業について
事業内容と、それに伴う会則変更案を一部修正のうえ承認。
- (2) 選挙制度について、選挙規則案を原案通り承認。
- (3) 名誉会長に係る会則改正案について承認。
- (4) 評議員会および総会のあり方について、今後の評議員会および総会に対する取りあつかいについて執行部案を承認。
- (5) 共済制度5年後の見直しについて、今後の取扱いについて承認。
- (6) 120周年記念事業案について承認。
- (7) 平成25年度入会金・会費について承認。
- (8) 平成25年度共済負担金について承認。
- (9) 財産（備品）廃棄処分について、処分案を承認。
- (10) 次年度の理事会、常任理事会の日程（案）を承認。
- (11) 東京歯科大学同窓会平成25年度収支予算（案）について承認。
- (12) 名誉会員推薦案を承認。
- (13) 平成24年度東京歯科大学同窓会評議員会・総会日程（案）について承認。
- (14) 平成25年度 第41回 同窓会主催全国ゴルフ大会について、日程および会場を承認。

東日本大震災対策部会



「被災地を見て」

中国地域支部連合会選出理事 小徳省三

6月10日、宮城県・松島での移動理事会を終え、被災地石巻市へ向かった。かねがね同じ日本人として、被災地を一度は見たいと思っていた。前夜の懇親会での同窓の先生方のお話は衝撃的であった。その中で特に印象的なお話は「自分の住んでる町が被災した時に、他の町の人が助けてくれなかったら」どう思うだろうかという言葉であった。

石巻では、昭和54年卒の鈴木先生の説明を受けた。鈴木先生がバスのマイクを持って、説明しようとした瞬間に絶句した。1年3ヵ月前を思

い出したそうです。

石巻市の人口は約12万人で、今回お亡くなりになった方は、約4千人。高台から被災地を見ると、今回の災害の凄さが想像できた。テレビによく映った市立病院の建物は残っているが、診療はその建物では今は行なわれていない。小学校の3階まで水が達した。線路ごと破壊され、仙石線は今も一部不通である。

鈴木先生は警察歯科医の資格を取得し、仙台の駒形先生等と奮闘したそうです。

私の地元・鳥取県米子市でも市長

が瓦^{がれき}受け入れを表明したが、反対の意見もある。同じ日本人として困ったものだ。

家が被災し、仮設住宅住まいの人がまだかなりいらっしゃるようだ。本当に何とかならないのかと思う。

東北人の寡黙な忍耐力は世界が認めた。

今回、宮城県へ行って、東北人の素朴さ、礼儀正しさを随所に感じられた。早い震災からの復興を願うものです。このような機会を与えていただいた同窓会に感謝します。





第3回理事会時被災地視察 石巻大震災視察見学

北陸地域支部連合会選出理事 加藤 成俊

6月9日松島にて、移動理事会をすませ、翌10日早朝より表記視察に出発いたしました。当日は、小雨に煙る天候になりましたが、皆それぞれに、被災地のことを胸に思い宮城交通のバスに乗り込みました。バスに乗ってほどなく、ほとんど全員の携帯電話に異様な着信音が！それは、訓練用のエリアメールでした。被災地の災害に対する姿勢とともに、大震災の被害の大きさを感じることができました。その後、松島北ICから、三陸高速道路を鳴瀬奥松島ICを経て石巻港ICまで直行。その後、日和山公園まで行く間、港近くを通りましたが、津波に遭って水に浸かった住宅や、倉庫の壁の浸かった線が残っていたり、生々しく当時の被害の大きさを感じ取ることができました。そして、震災までは、住宅や工場がびっしりと建っていたと思われましたが、今は、基礎のコンクリートだけが残っている状態です。そんな中を、しばらく走ると、今度はがれきの山が目飛び込んできました。バイク、車の部品、家庭用の雑貨、住宅の屋根や壁、ど

この物かわからないけどぐにゃりと曲がった鋼鉄の柱みたいなものなどです。そのがれきの山がすんだらまた、先ほどと同じ、荒涼とした景色が続いてその中に、また、がれきの山が、と、いった状況が続きます。その後、少し坂道を上って行き、石巻港を一望できる日和山公園に到着いたしました。

そこには、地元石巻のS54卒の鈴木先生が来ていらっしゃいました。先生から、当時の様子、その後の復旧についてお話がございましたが、その頃を思い出すと涙が止まらないようで、お話をされているあいだも、涙ぐんでおいででしたのが、印象的でした。

それから、バスを降りて、日和山公園にまいりました。先ほどから見てきましたがれきの山、流されてしまった住宅や工場の跡地、今は稼働していない石巻市立病院などが眼下に広がっていました。がれきの山も、数え切れないほど多くの数です。震災以前の写真もありましたが、以前の風景とこれが同じ所なのかと目を疑うほどの変わり様です。

また、バスに乗り、もう一度がれきの山の間を通過して帰路につきましたが、その途中、仙石線の線路が寸断されたところも通りました。駅も線路もずたずたで、復旧のめどもたっていないそうです。

昨晚、東菌の宮城県支部の前支部長と現支部長先生がおいでになりました。お話をされておられましたが、「どうして、全国の自治体でがれきを受け入れてもらえないのか、不思議であると同時に腹立たしさも感じる」とのご挨拶を思い出しました。今回、視察しましたのは、宮城県石巻のみでしたが、これが、青森、岩手、茨城、福島にわたっての問題で、私には想像もつかないほどの、広範囲なものです。復旧復興には、全国いや世界の皆さんで取り組まないとなかなか進まないのでしょうか。同窓会としても、今後しばらくのあいだは支援を続けていかなければならないとの思いを、さらに強く考えさせられた視察見学になりました。



保 険

平成 24 年版高齢社会白書によると、平成 25 年には高齢化率（総人口に占める 65 歳以上の高齢者人口の割合）が 25.1%で 4 人に 1 人となり、平成 47 年に 33.4%で 3 人に 1 人となり、高齢者の人口は平成 54 年に 3878 万人でピークを迎えると推測されています。当然、それに伴い寝たきりの患者は増加し、歯科訪問診療を避けて通れない世の中が既にそこまできています。

歯科訪問診療の保険請求に関しては、色々な保険関係の書籍で書かれてはいますが、これから歯科訪問診療を始めようとしている先生には、いささか取っ付き辛いと思います。そこで今回は、チェックシートを用い、分かりやすい歯科訪問診療の保険請求の手引きを作成いたしました。これが、歯科訪問診療を始める一助になれば幸いです。

チェックシートを用いた歯科訪問診療の保険請求

- | | |
|---|---|
| 施設基準 | <input type="checkbox"/> 施設基準の届け出をしているか ① |
| 依頼時 | <input type="checkbox"/> 患者の状態はどうか ② |
| | <input type="checkbox"/> 訪問場所はどこか ③ |
| | <input type="checkbox"/> 介護認定の有無 ④ |
| | <input type="checkbox"/> 周術期口腔機能管理の依頼かどうか ⑤ |
| 訪問時 | <input type="checkbox"/> 介護保険証の確認 ⑥ |
| | <input type="checkbox"/> ケアマネージャーがいるか ⑦ |
| | <input type="checkbox"/> 医科の受診状況はどうか ⑧ |
| | <input type="checkbox"/> 歯科疾患特別対応加算の対象者か ⑨ |
| | <input type="checkbox"/> 電気エンジン等を携行したか ⑩ |
| | <input type="checkbox"/> 20 分以上診療したか ⑪ |
| | <input type="checkbox"/> 継続的に診療するか ⑫ |
| <input type="checkbox"/> 歯科衛生士の口腔ケアを行う予定か ⑬ | |

① 施設基準の届け出をしているか

在宅療養支援歯科診療所（歯援診）の届け出をしている場合以下ようになります。

- 1) 「歯科疾患在宅療養管理料（歯在管）」は130点→140点+口腔機能加算50点です。
- 2) 歯科衛生士が帯同して診療補助をした場合は「歯科訪問診療補助加算（訪補助）」（同一建物内1人のみ110点 2人以上45点）を算定出来ます。
- 3) 退院時共同指導は300点→600点となります。

本格的に歯科訪問診療に取り組むのであれば、是非届け出を行って下さい。

② 患者の状態はどうか

平成 24 年度の改定で「常時寝たきり等」から「在宅等において療養を行っており疾病、傷病のため通院による歯科治療が困難な患者を対象としている」に訪問対象者の通知文が改正されました。このことから、個々の患者の状態により歯科医師の判断で行えるようになりました。

③ 訪問場所はどこか

施設というのは下記の 3 種類です。それ以外は居宅も含めて在宅等といわれています。有料老人ホームやグループホームは在宅等に含まれるので注意が必要です。施設での診療は**全て医療保険**で対応します。（在宅等、施設でも自院から半径 16km 以内）

- 施設の種類
1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）
 2. 老人保健施設（介護老人保健施設）
 3. 歯科を標榜していない病院（長期療養型病床・一般病床）

④ 介護認定の有無

依頼の時点では認定の有無のみを確認しておきます。訪問場所が在宅等であり介護認定を受けている場合は訪問時に介護保険証の確認が必要になります。

⑤ 周術期口腔機能管理の依頼かどうか

1 ヶ月以内に手術を行った、また今後行う予定がある場合は周術期の関連項目も算定可能ですので注意して下さい。

⑥ 介護保険証の確認

（医学管理の請求先の判断や介護保険請求に必要な箇所です）

1) 介護認定の有無

あり・・・「要介護 1～5」または「要支援 1～2」が記載されている場合

医学管理→「在宅療養管理指導 I」「介護予防在宅療養管理指導 I」

専門的口腔ケア→「歯科衛生士居宅療養」「介護予防歯科衛生士居宅療養」

なし・・・介護認定を受けていないので医学管理は「歯在管」、専門的口腔ケアは「訪問歯科衛生指導料（訪衛指）」

2) 認定の有効期間（介護認定ありの場合のみ）

3) 保険者番号及び被保険者番号（介護認定ありの場合のみ）

⑦ ケアマネージャーがいるか

居宅介護支援事業所との契約があり担当ケアマネージャーがいるかどうかにより、居宅療養管理指導 I を算定する際の情報提供先が変わります。

担当ケアマネージャーがいる場合は担当者に、いない場合はサービス事業者へ情報を提供します。またサービスを全く利用していない場合は情報提供の義務はありません。情報提供の方法は必ずしも文書で行うとは限りません。

- 1) サービス担当者会議に出席した場合や直接対面で説明した場合はカルテに要点を記載します。
- 2) 文書で行う場合は次の事項を情報提供します。
 - (a) 基本情報（医療機関名、住所、連絡先、歯科医師氏名、利用者氏名、生年月日 性別、住所、連絡先等）
 - (b) 利用者の病状、経過など
 - (c) 介護サービスを利用する上での留意点、介護方法など
 - (d) 利用者に日常生活上の留意点

カルテに記載する内容と情報提供する事項は異なります。また(c)の介護サービスとは歯科的事項です。歯科医師や歯科衛生士の行う居宅療養管理そのものが既に居宅サービスのひとつですから他のサービスのことを情報提供しなければならない訳ではありません。

⑧ 医科の受診状況はどうか

医科に通院している場合、送迎があるから外来受診出来るといった場合や介護タクシー等で搬送している場合もあり、医科主治医が往診ではないからといって一律に歯科訪問診療の対象外ではありません。個々の患者の状態を考慮して対応して下さい。外来受診した医科医療機関名を摘要欄記載するとスムーズです。

⑨ 歯科疾患特別対応加算の対象者か

(175点 カルテ及びレセプトの摘要欄に記載)

1. 初再診料（訪問診療料も含む）に対する加算は次のいずれかの条件に合えば算定出来ます
 - 1) 脳性麻痺等で身体の不随意運動や緊張が強く **体幹の安定が得られない**状態
 - 2) 知的発達障害により **開口保持が出来ない**状態
 - 3) 治療の目的が理解できず **治療に協力が得られない**状態
 - 4) 重度の喘息患者で **頻繁に治療の中断が必要な**状態
 - 5) 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、歯科診療に際して家族等の **援助を必要とする**状態
 - 6) これらに準じる状態

上記の斜字体がキーワードです。それを個々の患者に応じてアレンジして記載する訳です。

- 例) 認知症が重度で徘徊して **頻繁に治療の中断が必要**
 知的障害により **治療の目的が理解出来ない**
 麻痺が強く **体幹の安定が得られない**
 振せんが強く **開口保持が出来ない**

加算のある日とない日が同月に混在しても構いません。(例：実日数は2日であるが特別対応は1回のみ算定の場合) 診療日毎に理由が異なる場合も在り得ます。

2. 処置に対する 50/100 加算は上記の状態に加えて術者以外の医療職が **体幹の固定**や **開口の保持**を行った場合に算定します。(カルテ及びレセプトの摘要欄に記載)

例) 麻痺が強く **開口保持が出来ない**ため歯科衛生士により **開口の保持**を行った。

⑩ 電気エンジン等を携行したか

電気エンジンやエアタービンを携行していれば歯科訪問診療料の算定の有無に関わらず「在宅患者等急性歯科疾患対応加算（急性対応）」が人数に応じて算定出来ます。
 （1人のみ 170点 2～5人 85点 6人以上 50点）

⑪ 20分以上診療したか

同一建物内 20分以上の場合に「歯科訪問診療料」を算定。20分未満の場合は初再診料で対応します。

（1）訪問診療料 1（1人のみ）850点 （2）訪問診療料 2（2人以上）380点

診療時間とは治療時間のことではありません。問診を含めた診察や予後の管理等も全て含めます。（カルテ及びレセプトに診療開始時刻と終了時刻を記載）ただし、20分未満の場合でも患者の容体が急変して医師の診察を要する場合等やむを得ず診療を中止した場合は訪問診療料を算定できます。（カルテ及びレセプトの摘要欄に理由を記載）

⑫ 継続的に診療するか

訪問診療の結果、診療計画を立案し計画的な訪問診療を行う場合には情報提供を行います。

（外来における歯管、実地指との比較表）

	歯科医師の医学管理	歯科衛生士の専門的口腔ケア（口腔管理）
外来診療	歯管（文書必須）	実地指（文書必須）
訪問診療（施設）	歯在管（文書必須）	① 訪衛指複 360（1対1で20分以上） ② 訪衛指簡（1対1で20分未満または10人以下の集団で40分を超える） （いずれも文書必須）
訪問診療（在宅等）	居療養管理指導 I 500/450 （いずれも情報提供）	歯科衛生士居宅療養（1対1で20分以上） 350/300 （いずれも管理計画書提示）

※「同一建物内1人のみ / 2人以上」「点・単位」は略

⑬ 歯科衛生士の専門的口腔ケアを行うか

内容は医療保険の場合も介護保険の場合も単なる日常的な口腔清掃では算定出来ません。以下の流れに沿った専門的口腔ケア（口腔管理）が必要です。しかし、実施の手順は大きく違います。このことが、訪問診療の書類は複雑であるという先入観に繋がっていると思われます。

1) 医療保険での専門的口腔ケアの流れ（訪衛指）

歯科医師の診察→歯科医師による管理指導計画の策定及び指示→実施→歯科医師の診察（再評価）

※最初の診察から次の診察までの期間は1ヵ月です。特徴は歯科医師が歯科衛生士のための管理指導計画を作成する必要があります。また実施の記録以外は全てカルテに記載されることが必要です。

2) 介護保険での専門的口腔ケアの流れ（歯科衛生士居宅療養）

歯科医師の診察及び指示→アセスメント→管理指導計画策定→実施→モニタリング→歯科医師の診察（再評価）

※最初の診察から次の診察までの期間は3ヵ月です。特徴はアセスメント及び管理指導計画を歯科衛生士が主体となって作成することです。アセスメント、管理指導計画、実施の記録、モニタリングはカルテとは別になります。

東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と 同窓会役員との懇談会

第171回日歯代議員会1日目の9月13日（木）の午後6時30分より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント3階「千鳥」において東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員の懇談会が開催されました。

出席者は，東歯関係の日歯役員5名，日歯代議員19名，都道府県歯会長5名，同窓会役員21名，そしてご来賓として母校の井出吉信学長がご列席くださいました。

佐々木眞澄常任理事の司会進行で，宮地建夫副会長が開会の辞を述べ，まず矢崎秀昭会長より「日本歯科医師会，また同窓会においても今後若手対策が重要である。現在，同窓会としても大学と協力して若手対策に積極的に取り組んでいる。各歯科大学が生き残りへの対応をはかるなか，同窓会としても寄付をはじめとして母校への応援をしていきたい。また，現在3名の同窓が国政に向け頑張っている，今後，同窓会としても応援していきたい」との挨拶がありました。

つづいて，ご来賓の井出吉信学長より，日頃の同窓の支援に対するお礼と，「大学移転は順調に進んでいる，国試の合格率を含め東京歯科大学は順調なようだが，将来を考えるとここ2～3年が重要である。日頃より学生には同窓会，日本歯科医師会の重要性を教育している。今後一



層の支援を頂戴したい。」とのご挨拶を頂戴しました。

つぎに出席者の紹介にうつり，その中で，日歯常務理事の富山雅史先生（昭和57年卒）と中島信也先生（昭和59年卒），日歯理事の森原久樹先生（昭和43年卒）と中村宣夫先生（昭和55年卒）からは，それぞれご担当の会務内容につきご紹介頂きました。また，同窓会参与の衆議院議員川口 浩先生（昭和54年卒）と，現在，神奈川県で自民党参議院選挙区の支部長をされている島村 大先生（昭和60年卒）からも今後の国政に向けたご挨拶を頂戴しました。

この後，村山利之群馬県歯科医師会会長・日歯代議員（昭和55年卒）の座長のもと懇談会は進行され，第171回日歯代議員会の総括報告を高橋哲夫日歯代議員（昭和46年卒）より，日歯連盟報告を藤原元幸日歯代議員（昭和50年卒）より頂戴し，つづいて同窓会の会務報告を高橋義一専務理事が行いました。

ここで，大久保満男日歯会長，



村上恵一日歯専務理事，柳川忠廣日歯常務理事と，高木幹正日歯連盟会長，峰 正博日歯連盟副会長・理事長とがお見えになり，大久保満男日歯会長と高木幹正日歯連盟会長より，それぞれ日頃よりの会務への協力のお礼を含めたご挨拶を頂戴しました。

この後，各歯科医師会の新法人移行に伴う執行部の選出法等の紹介がなされ，最後に，梅村長生副会長が閉会の辞を述べました。

会場を「春琴」に移した懇親会では，佐瀬俊之副会長の開会の辞，矢崎会長挨拶，そして鳴神保雄同窓会顧問の乾杯の発声で，懇親会は終始和やかな雰囲気の中進行しました。なお，懇親会には千葉県で自民党衆議院選挙区の支部長を務められている白須賀貴樹先生（平成12年卒）がお見えになり，今後の国政にむけたご挨拶を頂戴しました。

最後に鳴神保雄顧問から総括を頂き，加藤木 健副会長の閉会の辞で終了しました。

卒研リポート2012

「最新 歯周炎患者へのアプローチ」

7月21日(土)に「イブニングセミナー②「最新 重度歯周病患者へのアプローチ～プロービングだけでは分からない歯周病態の把握～」が、翌22日(日)には「臨床実習セミナー①細菌・抗体検査の実際と歯周外科実習～重度歯周病患者へのアプローチ実際篇～」が、連日にわたり齋藤 淳先生(本学歯周病学講座教授)と二階堂雅彦先生(東京都中央区開業)を講師に行われました。

イブニングセミナーの第I部では、齋藤先生から「歯周病原細菌の検査、その血清抗体価の意義」と題して講義が行われました。歯周病は罹患率がとても高く、推定7,900万人ともいわれており、地球規模で蔓延している。歯肉縁下には約500種類(一個人では100~200種類)程度の細菌が存在すること、そして歯周病原細菌検査の変遷・血清抗体検査の有用性などについてわかりやすく解説されました。第II部では、二階堂先生から、最新のエビデンスと臨床症例から重症歯周炎の成り立ち、「不治の病」と言われた重度歯周炎の対処法について講演がありました。

翌日の臨床実習セミナーでは、前日のイブニングセミナーで解説され



た内容をふまえ、重度歯周炎のメカニズム、科学的根拠に基づいた知識をどのように臨床応用するかの実践となりました。

はじめに齋藤先生より歯周病検査の方法についての解説の後、細菌検査・抗体検査の相互実習を行いました。ペーパーポイントの扱いに苦労されている先生も見られましたが、検査を「する側」「される側」をそれぞれ体験することが出来、今後の診療にも結び付く実習となりました。

ついで二階堂先生より歯周外科手術の分類・適応についての講演がありました。その後場所を実習室に移し、日ごろ怠りがちなスケーラーのシャープニングの説明をうけ、インストラクターによるキュレットスケーラーのシャープニング実習が行われました。



午後から、本実習のメインイベントにあたるブタ顎フラップ手術実習が行われました。

実習前半ではフラップ手術(Open flap curettage)、後半では歯肉弁根尖側移動術(Apically positioned flap)、齋藤先生によるBio-Ossを用いたGTR手術、また二階堂先生によるエムドゲインを用いた歯周組織再生手術のデモンストレーションが行われました。

今回は、イブニングセミナーと臨床実習セミナーが2日間にわたって開催されたので通常のイブニングセミナー・臨床実習セミナー単体で受講するのに比べ、基礎知識の整理から実習までより深く学ぶことが出来たと思います。早速、明日の臨床に役立てたいと思います。

(取材・広報部 横田東生)



卒研レポート2012

インプラントセミナー マスターコース パート2

10回コースの卒研セミナーも今回5日目、6日目を迎え、暑い最中の7月14、15日に行われました。

<5日目>本日はじめに関根秀志先生による「各種インプラント体の構造の特徴と選択」。



表面形状、形状(ストレート、テーパー)、上部構造との連結様式、それぞれの違いと特徴の講義がありました。また午後には治療のリスクマネジメントの講義では、症例を通して術者の知識、技術、経験の必要性を学びました。



飯島俊一先生によるストローマンデンタルインプラントの講演、実習がありました。ブローネマルクとの違いや、特徴、施術の注意などの講義がありました。

実習では下顎大白歯部に2本のストローマンインプラントの埋入印象を実際に行いました。



最後に椎貝達夫先生によるCTデータの臨床応用でした。CBCTによる画像をシュミレーションソフトを使い実際の上顎臼歯部67欠損に対して各実習生が本数、長さ、径などを選択し、設計しました。



またこの日の昼食時、水道橋口腔インプラント科および病院診療科が新しくなり、一戸達也水道橋病院長のご案内で見学しました。



<6日目>椎貝達夫先生による上顎前歯などの骨幅の狭い症例に対するインプラント処置を講演と実習で学びました。



抜歯窩口蓋側にフレッシュソケットを形成し唇側骨の吸収を防ぐ。



小宮山彌太郎先生による締結感実習。インプラント体と上部構造を実際の模型を使って体感しました。



河田英司先生によるインプラント上部構造物の歯科理工学的特長の講演。



ブローネマルク実習で埋入した模型にプロビジョナルを作製する実習を行いました。今後上部構造物を装着する予定です。

(取材・広報部 島田 篤)

母校だより

本年度の Elective study のご報告と御礼

国際渉外部長 佐野 司

学生が海外の大学施設等で研修を行うことにより、広い視野を持ちながら勉学にいそしみ、ひいては将来の歯科界および東京歯科大学を担うことができる人材を養成することを目的に、本学では昨年度より第1学年から第6学年までの学生を対象に Elective study プログラムを実施している。本年度は、同窓会からの御援助を受け、第1学年から第6学年の成績優秀者の中から選考を行い13名が対象として選出された。本年度は、第1学年～第3学年が解剖学講座の阿部伸一教授の引率による台湾、第4学年～第6学年が現地で留学されている解剖学講座の松永 智講師の引率による鹿児島大学と本学との共催でのカナダでの研修を行った。

「台湾における Elective Study」

引率・阿部伸一（解剖学講座・教授）

姉妹校である台北医学大学において開催されたこのプログラムは、同窓会からも援助を受け昨年に引き続き開催された。参加学生は、台湾における歯科臨床体系の概要、台湾における特徴的な疾病とその対処、治療の概要などを習得でき、歯学部学生として積極的に海外の歯科事情へも目を向けるグローバルでアカデミックな意識を獲得できたのではないかと考えている。この場を借りて東京歯科大学同窓会のサポートに感謝の意を表したい。

3年 中川結理

台北医学大学付属病院は東京歯科大学病院の雰囲気にとっても酷似していたが、その病院の体系・診療区分・口腔疾患の種類など、日本と異なっていたことに驚いた。日本には気づかされないような歯科事情を知ることができ、常日頃、視野を広くグローバルな視点を持つべきことも痛感した。帰国後もコンスタントに意見交換できるような、歯科という同じフィールドでの友人を得られたことも大きな財産となった。これからお互い歯科医師となるものとしてのモチベーションの向上に生かしたい。このような貴重な経験をできたのは東京歯科大学同窓会からの援助のもとでのこのプログラムのおかげです。この場を借りて、東京歯科大学同窓会に感謝の意を

表すとともに、この経験を無駄にしないよう、日々研鑽を積み、立派な歯科医師になれるよう努力することを約束します。



毎朝行われたブリーフィングにて話を聞く両校の学生



学年を越えた交流で、研修を楽しむ1年～3年生の学生

3年 中野僚子

台湾へ行くことは簡単です。しかし、Elective Studyにより、病院施設を見学し先生方から説明を受けるという貴重な経験をすることができました。高度な医療機器について、台湾と日本の口腔癌の発生部位の違いとその原因など多くを学び、また、台北医科大の学生との交流を通し、台湾の歯科大生の考えや生活に触れることもでき、得るものの多い1週間となりました。このような貴重な機会を与えてくださった同窓会に心より感謝申し上げます。

2年 倉澤 馨

この度は Elective Study に参加させていただきありがとうございました。台湾では、台北医科大学及び大学附属病院などを見学し、台北医科大学の学生たちと交流しました。この企画から、世界に視野を向けることの大切さを知りました。また、台北医科大学に多くの友人を作ることが出来、彼らとはこれからも個人的な付き合いを続けていきたいと思えます。後輩たちにも素晴らしい経験を積んで欲しいので、今後も Elective Study を継続していただきたいです。

2年 阪上隆洋

研修先では、現地に詳しい学生と行動を共にすることで、普段の旅行では気付かないような多くの事に触れる

ことが出来たと思えます。このような学習の場を設けて下さった先生方や皆様に感謝してもしきれません。今回の台湾研修という経験を活かし、今後も勉学に励みたいと思えます。

1年 松浦信孝

一週間に及ぶこのプログラムは、海外への渡航が未経験であった自分にとって非常に刺激的なものでした。医療の内容や制度がその国の社会構造や文化に大きく影響される姿を見て、医療者である以前に、社会を知っていなければ心に届く医療は出来ないと思えました。また、異国の友人が出来たことで、他国を意識するようになりました。

このような機会を自分に与えてくれたことに心から感謝しています。

1年 真鍋 優

今回の Elective Study におきまして、台北医科大学並びに関連病院の見学、そして台北医科大学の学生間交流を通して多くのことを学ばせていただきました。私自身におきましても自分の理想像にむけてこれからの課題ならびに自信が再認識できました。このような有意義な時間を提供していただいた東京歯科大学同窓会の関係各位の皆様方には深く感謝している所存でございます。



通常は入ることのできない屋上のドクターヘリポートにて



病院施設の見学



アルバータ IRSM の病院施設見学



カナダの HORSE THIEF CANYON にて

「カナダにおける Elective Study」

引率・松永 智（解剖学講座・講師）

同窓会から援助をいただき、はじめてアルバータ大学およびミゼリコルディア病院 iRSM におけるエレクトティブスタディが行われた。顎顔面再建の最先端を実習するとともに、「すべては患者のために」を合言葉に進められるカナダのチーム医療を目の当たりにし、学生たちはその情熱に眼光炯々といった様子であった。また、アルバータ大学においてカナダの歴史や文化、考え方を大いに学ぶことができた。大学教授陣に物怖じすることなく質問を繰り返す学生たちに、かつての解剖学口頭試問における惨状を思い出して、ほろりとする私であった。カナダの大自然も存分に体験し、彼らが将来の東京歯科大学を担う人材として、より広い視野を獲得したことをうれしく思う。

6年 飯田雄太

この度は誠にありがとうございました。

カナダではとても有意義な時間が過ごせました。現地の病院の見学もでき、驚かされるが多々ありました。また、鹿児島大学の学生は歯学部以外の学部生でしたのでとても刺激になりました。今回の経験を十分生かして何ごとにも一生懸命臨みたいと思います。ありがとうございました。



カナダの大氷原で大自然を体感する参加学生

6年 覚本貴仁

この研修は、アルバータ大学での講義から、病院や企業の見学、そしてカナディアンロッキーでの大自然の観光と、一週間とは思えないほど内容の濃い充実したものとなり、自分の考え方を変える新たなものを学ぶことができました。貴重な経験をさせていただいたことに深謝いたします。

今後も精進してまいります。

4年 明石良彦

Elective Study に参加することで、日本では体験したことのない壮大な自然を肌で感じたり、歯科医療の最先端技術に実際に触れたりすることができ、貴重な経験ができました。

6年 崔 大煥

カナダにおける研修はとても新鮮で、興味深いものでした。英語の勉強やカナダでの歯科はもちろんのこと、カナダの歴史や広大な土地を見て聞いて知ることができとても勉強になりました。このような機会を与えていただきありがとうございました。

この研修のために多くのご支援をいただき、ありがとうございました。

4年 齊藤友護

この度は Elective Study において多大なご援助いただきましたこと心より感謝いたします。貴重な時間を過ごすことができました。今回の経験を生かし教養豊かな歯科医師となり、皆様のご援助に応えることができるよう日々努力していきたいと思います。

5年 大津雄人

この度は海外への研修にあたり、多大なるご支援をいただき誠にありがとうございました。私はこの研修を通じて日本では体験することのできないかけがえのない経験をさせていただきました。この経験を生かし今後ともより一層勉学に励みたいと思います。

5年 大竹智久

まず同窓会の皆さま、今回このような海外研修の機会を与えていただき大変ありがとうございました。今回のカナダ研修では、この機会でなければ出来ないであろう一生に一度の経験ができました。この経験をいかせるよう



iRSM で留学中の本学講師 松永先生と見学をした学生

平成25年度東京歯科大学入学案内 (東京歯科大学入試要項より)

1. 入試日程一覧 (全募集人員128名：編入学除く)

入試制度	募集人員	出願期間 (期間内必着)	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学選考	約45名	平成24年11月1日 ～ 平成24年11月6日	平成24年 11月10日	平成24年 11月13日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎
帰国子女・ 留学生特別選抜	若干名				大阪会場： 天満研修センター
編入学試験 A	若干名				福岡会場： TKP 天神シティセンター
学士等特別選抜 A	若干名				東京歯科大学水道橋校舎
一般入試 (I期)	約50名	平成24年12月17日 ～ 平成25年1月28日	平成25年 2月2日	平成25年 2月6日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎
大学入試センター利用 試験 (I期)	13名				大阪会場： 天満研修センター
一般入試 (II期)	約15名	平成25年2月19日 ～ 平成25年3月5日	平成25年 3月9日	平成25年 3月12日	東京歯科大学水道橋校舎
大学入試センター利用 試験 (II期)	5名				
編入学試験 B	若干名				
学士等特別選抜 B	若干名				

※編入学試験 A・B は、2年次に編入学

2. 出願資格

推薦入学選考 (一般公募制)

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任を持って推薦する者。

1. 平成24年3月高等学校卒業または平成25年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

帰国子女・留学生特別選抜

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成25年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成25年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成25年3月31日までに18歳に達する者。

編入学試験 A・B, 学士等特別選抜 A・B 共通

次のいずれかを満たす者とする。

- ① 4年制大学卒業または平成25年3月卒業見込の者。
- ② 医療技術系短期大学を卒業した者または平成25年3月卒業見込の者。
※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③ 4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者。
※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

3. 試験内容

入試制度	選考内容・試験内容
推薦入学選考（一般公募制）	(1) 小論文 (2) 小テスト [外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目を選択）] (3) 面接
帰国子女・留学生特別選抜	
一般入試（Ⅰ期）	(1) Ⅰ期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学 ③ 理科（物理・化学・生物から1科目を選択） Ⅱ期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択 (2) 小論文 (3) 面接
一般入試（Ⅱ期）	
大学入試センター利用試験（Ⅰ期）	(1) 平成25年度大学入試センター試験の受験科目 外国語 「英語（リスニングを除く）」 数 学 「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目 理 科 「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目 (2) 小論文 (3) 面接
大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	
編入学試験 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科の基礎知識問題） (3) 面接（グループ面接・個人面接）
編入学試験 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（グループ面接・個人面接）
学士等特別選抜 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科の基礎知識問題） (3) 面接（個人面接）
学士等特別選抜 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（個人面接）

※1 一般入試（Ⅰ期、Ⅱ期）学力試験出題範囲

外国語 英語：英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。

数 学 数学：数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B。なお、数Bは「数列」と「ベクトル」を出題範囲とする。

理 科 物理：物Ⅰ、物Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された物理Ⅱのうち以下のものを除く。

〔(3)物質と原子〕の「イ 原子、電子と物質の性質」、〔(4)原子と原子核〕

化学：化Ⅰ、化Ⅱ

生物：生Ⅰ、生Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された生物Ⅱのうち以下のものを除く。

〔(3)生物の集団〕

4. 学納金（全入試制度共通）

入学金	600,000円（入学時のみ）
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円（入学時のみ）
施設維持費	1,000,000円
合計	9,400,000円

— 受験科目詳細・入学手続きその他詳細は [入試要項] をご覧下さい —

（入試要項は、大学教務課に資料請求して下さい。web サイトからも請求可能

<http://www.tdc.ac.jp/college/applicants/index.html>）

支部のうごき

掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
保険講習会 平成24年 11月10日(土) 午後6時～	歯科診療報酬請求への対応 森岡俊介先生 (東京都開業)	ウィリング横浜ゆめおお おかオフィスタワー121・ 122号室 横浜市港南区上大岡西 1-6-1	横浜南部支部 連絡先 担当・渡邊宇一 TEL 045-842-0233	同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成24年 11月23日 (金・祝)	開業医が持ち合わせておくべき口腔 癌の知識とその診査方法(仮) 片倉 朗教授 (東歯大オーラルメディスン 口腔外科学講座)	ウイステイン都ホテル 京都市東区三条蹴上	近畿地域支部連合会 連絡先 担当・河野多聞 TEL 075-982-3200	連合会会員
学術講演会 平成24年 12月8日(土) 午後5時30分～	循環器領域における抗血小板薬、抗 凝固薬について 吉田美奈子先生 (日産自動車健康保険組合 追浜地区診療所 産業医)	グランドホテル神奈中平 塚 平塚市八重咲町6-18 TEL 0463-23-0300	神奈川西湘支部 連絡先 担当・秋山達郎 TEL 0463-31-2249	支部会員
学術講演会 平成24年 12月16日(日) 午前10時～12時	睡眠時無呼吸症候群に対する歯科の 役割(仮) 「睡眠歯科医学は歯科医学の未来を 変える」 外木守雄先生 (日本大学歯学部口腔外科講座教授)	島根県歯科医師会館 松江市南田町141-9 TEL 0852-24-2725	連絡先 担当・多田 宏 TEL 0852-25-5515	歯科、 医科関係

北海道地域支部連合会

札幌総会報告

東京歯科大学同窓会北海道地域支部連合会平成24年度通常総会は、8月18日(土)午後6時より、東京ドームホテル札幌にて開催された。宮田憲幸専務の司会で始まり、中野一博札幌支部長の開会の辞の後、同窓会公認の常任指揮者・島田清純先生の清らかなヴァイオリンの音を伴奏に校歌が斉唱された。続いて7名の物故会員(平成23年度、空知・柳 弘治先生、札幌・谷口良一先生、旭川・佐藤邦典先生、平成24年4月以降、函館・山下達郎先生、苫小牧・佐々木

裕壽先生、苫小牧・松本新一朗先生、小樽・馬淵清志先生)に黙祷が捧げられた。

来賓として招請した、本部同窓会・矢崎秀昭会長、井出吉信学長、本部同窓会・梅村長生副会長、高橋義一専務理事をご紹介の後、連合同窓会・佐藤英俊会長より挨拶があり、そのなかで本部同窓会ならびに連合会の機構改革の報告があった。

これに続き来賓からも挨拶をいただき、井出学長より①校舎の水道橋移転と関連事項の経過報告、②入学者の推移と本学の現状報告、③大学

運営における今後の展望と問題点とその対策などにつきプロジェクターを使用して解説していただいた。また、高橋義一専務理事からは、同窓会運営の現状について報告があり、本学卒後の同窓会入会者の減少とその対策についてプロジェクターを使用した解説があった。

引き続き、感謝状および記念品の贈呈となり、以下の方々に贈られた。(以下敬称略)

米寿のお祝い

船本達世(札幌)

樋口 潔(北見)

生原醇治(苦小牧)
喜寿のお祝い
中井一仁(札幌)
小川 弘(旭川)
唐橋 宥(小樽)
平井茂重(小樽)
斉藤郁郎(苦小牧)
森 政成(十勝)
白井陽二(函館)

感謝状

麻生 博(前札幌支部長)
西川忠弘(前函館支部長)

ここで議長選出となり、議長に市川 徹旭川支部長が、副議長に坂田道昭小樽支部長がそれぞれ選任された。杉山 裕総務より会務報告が、原 覚会計より決算報告がなされ、監事を代表して藤森敏昭監事より監査報告がなされた。第1号議案「平成23年度収入支出決算に関する

件」は全会一致で承認された。

続いて協議事項に移り、連合会佐藤英俊会長より震災被災同窓への支援を今年度も継続していきたいとの提案があり、賛成多数で可決された。時期や方法については引き続き検討される。

議事終了後、時期総会開催地である苦小牧支部・伊尾明子支部長より9月7日(土)に開催予定で、同時開催される卒研には法歯学講座・水口清教授を招聘し、ご講演いただくとの案内があった。連合会・千葉 亘副会長の閉会の辞で、全ての日程を無事終了した。

さて、長時間にわたり慎重審議された総会とはうって変わり、皆すっかり喉も渇きり、次は待ちに待った懇親会の開催です。佐藤連合会長、

矢崎本部長の挨拶に続き、梅村本部長副会長による乾杯。一同、勢い良くビールを流し込んでおりました。純白のドレスに身を包んだバンケッタのお酌と、美しく盛り付けられた料理に下鼓。緊張から解き放たれたこのときばかりは自然と笑みが溢れます。遠路お子様づれで参加されたご夫婦の会員もおられました。同じ同窓同士、自然と話が弾んでいるようでした。かくいう私もしっかりとビンゴの賞品をゲットして楽しいひと時を過ごしました。宴も終盤にさしかかり、鮫島道幸先生の「酒飲みの信条」(?)を伺い、また同窓会員へ送られた力強いエールを胸に刻んで閉会となりました。

(高橋一行 記)



信越地域支部連合会

平成24年度信越連合会総会並びに新潟県支部総会

去る6月30日(土)、新潟市「ホテルイタリヤ軒」に於いて今年度の同窓会信越連合会総会並びに新潟県支

部総会が開催されました。来賓として浮地文夫同窓会副会長、高橋義一同窓会専務理事、母校より井出吉信学長、阿部伸一教授、並びに母校同窓の新潟大学歯学部齊藤 力教授を

お迎えし、長野県支部16名、新潟県支部32名が参加されました。

新潟県支部総会は岡田泰幸先生の司会で始まり、小千谷市の鈴木義隆先生が議長に選出されました。まず

広瀬 秀副会長より、今年の3月26日に高垣順吉前支部長がご逝去され、柏崎市の阿部晴弘先生に支部長代行を務めていただいた経緯について説明がありました。先立って行われた理事会で阿部先生が新支部長に推挙され、本会にて支部長に選出されました。高垣前支部長に黙祷を捧げ、阿部支部長により若い先生の同窓会離れ、新潟では高齢化が著しいが皆で同窓会を盛り立てていこうと挨拶がありました。その後、事務手続きを簡素化するために作成した新潟県支部ホームページの活用についての説明、次期は中越地区担当での開催に決定した報告があり閉会いたしました。

続く信越連合総会は長野県16名、新潟県32名の参加があり、ご来賓として、浮地文夫同窓会副会長、高橋義一同窓会専務理事、母校より井出吉信学長、阿部伸一教授、並びに齊藤 力新潟大学教授にお越しいただきました。岡田泰幸先生の司会の

もと、鈴木義隆先生が議長に、飯島和彦先生が副議長に選出され、阿部晴弘信越地区支部連合会会長の挨拶が行われました。浮地先生より、より強い会員との連携と母校への支援について、高橋先生より若手同窓と女性会員との連携強化についての説明がありました。井出学長からは新1年生の新校舎での学生生活と水道橋移転の現状説明、今年为国家試験・入試状況、歯科大学の生存競争が激化している中での母校の厳しい現状などについての報告がありました。引き続き庶務報告、物故会員へ黙祷を捧げた後、議事協議に移り、次期は長野県佐久方面での開催が承認され閉会いたしました。

引き続き、解剖学講座主任教授の阿部伸一先生より『臨床に役立つ機能解剖学 ～総義歯からインプラントまで～』の演題で学術講演が行われました。歯牙喪失後、顎骨の形態の変化により歯槽堤に対して神経・血管の位置がどのように変位してい

くかを口腔底の解剖とともに解説し、それに伴いインプラント埋入部位の注意事項について説明していただきました。次に顎関節の解剖と動き、嚥下機能について動画を交えて大変わかりやすく解説いただき、義歯の吸着に機能解剖学がどのように関わっているか、日常見落としがちな周囲組織と義歯との関係を再認識させられました。

記念撮影の後、懇親会に移りました。三村大輔先生の司会のもと阿部晴弘先生の開会の挨拶、松川公敏先生の地元歓迎の挨拶、ご来賓の挨拶と続き、齋藤 力先生の乾杯の発声で宴が始まりました。珍しいサッポロの地域限定ビール「気分爽快ニシテ」で乾いた喉を潤しつつ始終和やかに会員相互の親睦を深めました。毎年恒例の八百枝正樹先生の指揮で校歌斉唱し万歳三唱の後、名残惜しいなか終宴となりました。

(加茂芳江 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

関東地域支部連合会

9月2日(日)横浜ベイシェラトンホテル& Towersにおいて、神奈川県が当番県となり、平成24年度東京歯科大学同窓会関東地域支部連合会総会が開催された。

総会に先立ち、午前11時より7県代表者2名ずつによる支部長懇談会が開催された。ここでは主に、本部同窓会評議員数、若手同窓会員獲得のための各県の試み、などについて昼食を摂りながら懇談が行われた。

続いて正午より、本部同窓会より矢崎秀昭同窓会長、高橋義一専務理事と神奈川県の10支部長が加わり支部長会が行われ、本部同窓会改革の現況報告などが行われた。

総会は午後1時30分より開催された。高橋 庸神奈川県支部連合同窓会副会長の開会の辞に続き、杉山紀子関東地域支部連合会会長が挨拶を行った。

次に逝去会員のご冥福を祈り、全員で黙祷を捧げた。

続いてご来賓の祝辞、本部同窓会より矢崎会長、大学より金子 譲理事長がそれぞれ同窓会、大学の現状と今後の目標を含めてご挨拶された。

来賓紹介の後、恒例により当番県である神奈川県の杉山支部長が座長に、次期当番県である千葉県の高原正明支部長が副座長に選出された。

報告では、本部報告を高橋本部同窓会専務理事が、大学報告を一戸達也東京歯科大学水道橋病院長が、



会務報告を高階光博神奈川県支部連合同窓会常務理事が、支部長懇談会、支部長会報告を杉山関東地域支部連合会会長がそれぞれ述べた。

次いで議事に移り、以下の議案が上程された。

第1号議案：平成23年度東京歯科大学同窓会関東地域支部連合会収入支出決算の承認を求める件

第2号議案：平成24年度東京歯科大学同窓会関東地域支部連合会事業計画(案)の承認を求める件

第3号議案：平成24年度東京歯科大学同窓会関東地域支部連合会収入支出予算(案)の承認を求める件

第4号議案：その他

慎重審議ののち、採決の結果、上程されたすべての議案は賛成多数により可決承認された。

次に、次期当番県の高原千葉県同窓会支部長が挨拶し、最後に中島信也神奈川県支部連合同窓会副会長の閉会の辞を以って総会は滞りなく終了した。

記念講演会は午後3時30分より鈴木聡行神奈川県支部連合同窓会常務理事の司会のもと開催された。



講師には、横浜シティーガイド協会副会長の嶋田昌子先生をお招きし、「歩いて知る横浜の町」と題してご講演頂いた。

先生は、観光客などに横浜固有の歴史や文化について広く知ってもらうべくボランティアガイドをされており、「五感で町を理解することが大切である。実際にその町を歩くとおのずと見えてくるものがある」と横浜の歴史を踏まえ写真や絵を交えてお話いただいた。

懇親会は午後5時より、高橋紀樹神奈川県歯科医師会会長がご来賓に加わり和気藹々の雰囲気の中行われた。あちらこちらで年に一度の再会を喜び笑顔で握手をする姿が見られた。最後に校歌を斉唱してお開きとなった。(宇佐美貴弘 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

神奈川県支部連合同窓会

8月5日(日)に、本年度の会員家族レクリエーションが行われた。今回は、開業間もない東京スカイツリーを訪れ、天望デッキからの絶景を楽しみ、ソラマチ散策後、お台場へ移動し、日本科学未来館でASIMOと遊ぼう!という欲張りな日帰り旅行を企画した。

スカイツリーのチケットの関係から先着順であったため、残念ながら参加をお断りした会員もいる中、ラッキーな50名の参加者を乗せたバスは、首都高を經由してスカイツリーへと向かった。朝早くで道がすいていたため午前9時前には現地に着し、集合写真を済ませ、期待に胸を膨らませて団体専用入場口へと向かった。あっという間に地上350メートルの第1展望台に到着。天望デッキに上がるエレベーターには長い列ができていたが、全員速やかに並び地上450メートルを目指した。約20分の待ち時間で天望デッキに到着。参加者の日頃の行いが良いせいか、当日は快晴で遠くまで見渡せる絶景を堪能した。地上を見下ろす角

度が新体験ともいえる感覚で思い思いに楽しむことができたようである。ソラマチ商店街をそれぞれ散策した後に、バスへ乗って「駒形どぜう」へ移動。冷えたビールに、どぜう鍋、柳川鍋等でスタミナ補給をしつつ、会員の懇親を深めることができた。

食後は、これまた開通間もない東京ゲートブリッジを通り、お台場の日本科学未来館へ移動。残念ながらお目当てのASIMOは休憩中で動いているところを見ることはできなかったが、日本最先端の幅広い科学に触れることができて有意義な訪問であった。その一方でおやつと称し、レストランでビールにワインを開けながら、より深い懇親を重ねているグループがいたこと、その結



果、大型バスを思いのままにトイレ休憩させる結果になったことも追記しておく。

大変暑い一日ではあったが、熱中症になるものもなく、朝の集合が早かったため、少し早めに横浜を經由し、川崎で解散した。

(川越元久 記)



群馬県支部

平成24年度定時総会

平成24年度群馬県同窓会定時総会が、平成24年7月7日(土)午後3時より伊香保の千明仁泉亭に於いて開催されました。来賓として、同窓会本部より会長の矢崎秀昭先生、同窓で群馬県歯科医師会会長の村山利之先生をお迎えしました。総会に先立ち、矢崎同窓会本部会長と当会役員との懇親会を開催しました。評議員の選出問題、地域支部連合会について、委員会の委員の委託について、寄付金や未入会者等についてのこちらから事前に用意した質問に対し、矢崎会長のお考えを直接お聴きできて大変有意義な会となりました。真下泰彦副会長の開会の辞に続き、平成24年3月の定時総会以降にご逝去された正木光児先生、太田 実先生に黙祷を捧げました。続いて、清見能久同窓会会長より挨拶が行われ、総会における慎重審議、学術講演会での研鑽や来賓の先生の紹介についてお話がありました。次に、

来賓の同窓会本部会長の矢崎秀昭先生より挨拶が行われ、私立歯科大がサバイバル状況の中、大学の水道橋移転は順調に進んでいること、今年の入学試験では志望者が多く集まったこと、国試の合格率がトップだったことなど大学の現況についてお話いただきました。また、血協ホール建設のために寄付金のさらなるお願いがありました。続いて、若手の同窓会員の同窓会や歯科医師会離れが切実な問題となっていて、同窓会本部の一番の課題として、若手のネットワーク委員会等を発足させ、学生や研修医の時から同窓会を理解してもらうよう努力していること、各支部においても学生が帰省した際に交流を図ってほしい旨のお話がありました。次に、来賓の群馬県歯科医師会会長の村山利之先生より挨拶が行われ、会務への協力への感謝、支援のお願いがあり、医院経営がしっかりできて同窓会へのバックアップができるので、個別指導等に対して

しっかり会員擁護していく所存であることをお話しいただきました。次に、平成24年4月から総会までの庶務報告が行われました。次に、総会議長に宮下英一郎先生が選出され、平成23年度事業報告、一般会計および福祉共済部会計決算が議題として提出され、全て満場一致で可決承認されました。次に、その他として前回の総会で提案された代理人制度について意見交換が行われ、承認をいただき、詳細については今後役員会で検討していくこととなりました。次に新入会員の平山秀樹先生が紹介され、ご挨拶いただきました。そして、引田正俊副会長より閉会の挨拶が行われ、総会は無事終了しました。

引き続き、同会場にて学術講演会が行われました。講師は来賓としてお迎えしている矢崎秀昭先生で、講演会に先立ち、顧問の武安一嘉先生より挨拶が行われ、矢崎先生との医局時代の思い出や故正木光児先生に



哀悼の意を捧げられました。講演会は「患者さんが満足する高齢者に優しい総義歯の臨床」（在宅診療などにおける複製義歯を応用した摂食機能の充実）という演題で行われました。今後の歯科医療は在宅介護への

対応が重要であり、在宅歯科訪問の際に複製義歯を使用することによる要介護者における摂食嚥下機能の維持について詳しくお話していただきました。

学術講演会終了後、記念撮影を行

い、川越文雄先生の乾杯のもとに懇親会を開宴しました。終始なごやかな雰囲気の中で、お互いの親睦を深め合い、最後に校歌を斉唱してお開きとなりました。（三丸 潔 記）

千葉県支部

東京歯科大学との懇談会

東京歯科大学と同窓会千葉県支部の懇談会が7月12日(木)午後6時より京成ホテル・ミラマーレで開催されました。本来は昨年開催の予定でしたが、東日本大震災の関係を受け1年延期して開催されました。当日は、大学より金子理事長、井出学長、石井副学長、高野千葉病院長、一戸水道橋病院長、片倉市川総合病院歯科・口腔外科部長、佐藤学生部長のご出席を賜り、70名を超える同窓の先生方がお迎えいたしました。

北浦副会長の開会の辞。高原会長の挨拶。来賓のご紹介。続いてご来賓の金子理事長よりご挨拶を頂戴いたしました。

「私も理事長という立場になりました。ちょうど1年が経過いたしました。つい最近、鶴屋の土地を購入することになりました。全体を一つのものにするには30年先になると思いますが、建てられる土地ができたということになります。日大の町といわれる水道橋を古い歴史を持つ東京



歯科大学の存在感を出していきたい。また東京歯科大学の将来の構想をふまえて、いよいよ千葉校舎の跡地の検討をしなくてはならない時期に来ております。最後に東京歯科大学の歴史に伝統を継承することが大変重要な時代となってきています。同窓の気持ちの支援が一番必要であるのでよろしくお願ひしたい」。

続いて井出学長よりご挨拶をいただき、本年4月に最初の新入生を迎え開校したさいかち坂校舎の様子や大学の現況をお話していただきました。

その後、千葉県歯科医師会会長浅野先生（昭和40年卒）よりご挨拶をいただき、懇親会に入りました。（野田彰久 記）



横浜鶴見支部

鶴見東歯会 家族レク開催

8月25日(土)午後6時より横浜スタジアム至近のトルコ料理「アリババ・レストラン&バー」において19名参加のもと、鶴見東歯会会員・家族・従業員レクリエーションが開催された。

横浜に居ながらにして世界の料理を食べ尽くす第7弾となる今回は、世界三大料理のひとつであるトルコ料理店を貸し切り、本場のトルコ料理と妖艶なベリーダンスのショーを楽しもうという企画を立てた。

参加者らは開会1時間前から続々と集合。受付で会費徴収と同時に「何を呑みますか?」とドリンクオーダー。全員即答で「トルコビール」恐るべし鶴見東歯会。

はじめに、佐藤秀夫会長が挨拶し、おかわりのビールの準備が整ったところで乾杯に移った。乾杯の発声は、本年めでたく結婚30周年を迎えた森田正純先生が笑顔でグラスを

高らかに上げ、グビりと呑み干した。

「閉店まで呑み放題。ただしトルコワインは別会計となるので、ワインはグラスワインで。でも、せっかくなので後ほど高級トルコワインを一口ずつ楽しみましょう」との幹事の声などどこ吹く風。あっちで赤、こっちで白のボトルを次々注文。幹事の額に脂汗。しかしお酒が進むのもそのはず。トルコ人ご夫妻の作る本場の料理はどれも絶品であった。「パッテウルジャンエズメ」(茄子のペースト)を「エキメッキ」(トルコ料理にはかかせない自家製のパン)に付けて頂く。スパイシーな「レンズ豆スープ」を啜り、談笑しているとメインの「ミックスケバプ」(羊や牛の焼肉盛り合わせ)が登場。「肉には赤ワインでしょ」と高級トルコワインを味見。残念ながらほろ酔いで味の違いは判別不能。

恒例の会員近況報告も行われ、そ



れぞれに近況を語っていると、ダンサーが入店。ショーの準備に入る。一同気もそぞろ。結局途中で打ち切り、お待ちかねのショータイム。

店の奥からマリブルーのシルクのマントを身にまとい颯爽と登場。激しく腰をくねらせながら、マントを振り払うと、セクシーな衣装が露わに。目のやり場に困るほどであった。妖艶かつダイナミックに踊る姿を見ているうちにこちらも身体が自然と動き始め、みんなでダンシング。胸元にチップを差し込む鼻の下の伸びた旦那を横目に「ずいぶん慣れているのね」と冷ややかな奥様。それを察してか、お次は女性陣のみダンスに加わり盛り上がりは最高潮に。ダンサーを交え全員で記念撮影をした後、冷たいトルコビールで火照った身体をクールダウンし、引き続きトルコ料理を堪能した。「マンティ」(トルコの餃子。具は羊の挽肉)はプルンとした食感がたまらなくワインとの相性も抜群であった。デザートと「チャイ」(甘く煮出したお茶)を楽しんでトルコ料理フルコース完食。

最後に、吉田礎久先生の閉会の辞を以ってお開きとなった。

(宇佐美貴弘 記)



横浜南部支部



会員・家族・従業員夏のレクリエーション開催

平成24年8月25日(土)午後6時30分より、横浜市金沢区のすし処「かねへい」において、毎夏恒例の会員・家族レクリエーションが開催された。

横浜南部支部では、隔年で金沢区主催の花火大会に合わせてレクリエーションを企画している。ここ数年は近隣のゴルフ場でバーベキューを楽しみながら花火を鑑賞する会が続いたが、今年は一転、寿司屋の二階座敷を借り切った花火見物となった。

八景島沖に上がる花火を海の公園から見物しようとする大勢の見物客に押されながら、ようやく会場に到着。浅川 仁厚生担当理事の司会で開会、玉井達人支部長の挨拶の後、浜野文夫相談役の乾杯のご発声で喉



を潤した。

今回の参加者は老若男女合わせて20名であった。写真に写っている浴衣姿のあでやかなお二人は、鈴木信治専務理事のお嬢さんとそのご友人で、韓国に留学されているお嬢さんがちょうど夏休みで帰国され、たまたま韓国のご友人も一緒に来日されていたので、お誘いしてのご出席となった。

地元小柴の漁港で上がった新鮮な魚介をネタに、お刺身、天ぷら、唐



揚げと料理が進むうち、待望の花火が始まった。冷房のため締め切っていた窓を開け放つと、煙硝の匂いも生々しく、凄まじい轟音とともに打ち上がる美しい花火にしばし箸を持つ手を休ませ、去りゆく夏の宵を存分に楽しんだ。

最後の花火がうち上がるころちょうどお時間となり、山下 誠副支部長の挨拶で閉会。その後恒例の記念写真を撮影して散会した。

(渡邊宇一 記)



写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。

川崎支部

川崎水橋会

平成24年6月23日(土)～24日(日), 川崎水橋会恒例の学術研修旅行が, 熱海「ニューさがみや」において行われました。学術講演は口腔外科学講座主任教授の柴原孝彦教授をお迎えいたしました。演題は「見逃してはならない粘膜疾患—日常診療から検診まで—」ということで, 日常臨床で私たちが目にする可能性がある多数の粘膜疾患の写真をご提示していただき, それについての詳細な鑑別方法の解説, また, 全がんのうちの口腔癌の割合, 年齢別や来院経路

等のデータの提示, 現在, 千葉県で行ってきた口腔癌検診の成果をより具体的に分かりやすく説明していただきました。学生時代に習ったときと同様に熱く引き込まれるような語り口に, 参加者は熱心に耳をかたむけていました。

講演会終了後は, 温泉で疲れを癒して, 懇親会へと移りました。柴原先生を囲んで, おいしい料理とお酒を肴に会員との昔話等ほもりあがり, 時間を忘れて楽しい時間を過ごしました。そして, 2次会はカラオケで, それぞれが自慢の歌を披露



し, ダンスをはじめ先生もいらして, 再び盛り上がった場となりました。最後は, 恒例の校歌斉唱で楽しい時間の締めとなりました。

翌朝は, 朝食後, 自由解散となりました。(中田伸一 記)



愛媛県支部

夏のレクリエーション報告

7月28日、猛暑の中恒例の愛媛県支部同窓会夏のレクリエーションが西条国際ホテルで開催されました。県下各地区より単身で参加された先生、家族同伴で参加された方、総勢で49名が6時30分より楽しく歓談の時間を持ちました。9時で話が尽きぬまま中締めとなりましたが、夜は長く当然二次会場のショットバーへ移動し深夜まで延長。翌日のゴルフ組、石鎚山観光組の体調を心配しながらお開きとなりました。

ゴルフ組は翌29日に炎天下の新居浜市の滝の宮カントリークラブで12名の参加で行われ、矢野興一先生が別子45、石鎚38の83で優勝されました。(横山洋行 記)

観光組レポート

土曜日の楽しい宴の余韻を残しながらの観光組からのレポートです。

29日(日)観光組はゴルフ組とマラソンで家まで帰られる山田先生を見

送り(西条から大島まで走って帰るのですか?…カッコいい)、横山会長をリーダーに、海でも山でもなんでも来いの兵藤先生、「だって主人はゴルフに行っちゃいましたから…」と矢野専務の奥様とご子息2名、経験豊富な久保田 敦先輩と奥様とお嬢様、「え?半ズボンではダメ?」と近くのコンビニに行く格好の池田敬洋先輩と奥様とご子息、流行ものには敏感な高岡もとふみファミリーというメンバーで神秘のパワースポット石鎚山に行ってきました。

我々が道中迷子にならないように、横山会長が先導を走っていただけのおかげで事故もなく無事ロープウェイ乗り場まで到着し、記念撮影をしました。その後ロープウェイとリフトを使って登り、兵藤先生から山のマナーと歩き方のコツを教えて頂きながら、夏の山を満喫しました。途中でクラフトづくりコーナーとカブトムシコーナーがあり、おか



げで子供たちは夏休みの宿題をクリアできたようです。すがすがしい気持ちになり全員でゆっくり下山してみんなで食事を楽しみました。参加された皆様、お疲れ様でした。また、山の中で我々をいつも最後尾から見守ってくださった兵藤先生、ありがとうございます。

最後になりますが「最近、同窓会に出てないなあ」とこの記事を見て感じられた先生方も12月第一週に開催される「年末総会、講演会」等々でお会いできるのを楽しみにしております。(高岡元文 記)



鹿児島県支部

会員一泊旅行開催

平成24年7月28～29日、長かった梅雨が明け、久しぶりの青空が広がった週末、当支部で隔年開催が恒例となった1泊懇親旅行が開催された。今回の目的地は熊本県の人吉、球磨川沿いに広がる盆地は九州の小京都とも呼ばれる歴史ある街だ。

初日は鹿児島中央駅から観光特急「はやとの風」に乗車。発車前からあちこちで「プシュッ」と開缶の音が響き、参加者の意気込みが感じられる。雄大な桜島を車窓に錦江湾沿いを北上し、九州で人気No.1の駅弁・嘉例川弁当をいただく。吉松駅で「しんぺい」に乗り換え、鹿児島・熊本県境の険しい山をスイッチバックやループ線を走って越え、終点の人吉へ。途中駅ではお土産を買ったり、明治時代の駅舎を見学したり、地方のローカル線ならではのゆったりした旅だ。宿のマイクロバスで旅館「あゆの里」に到着。球磨

川を見下ろす風光明媚な温泉に浸かり、いざ宴会場へ。内田会長の挨拶と篠原会員の乾杯で始まった宴会では、途中に森原県歯会長の近況報告なども挟みながら、地元で獲れた鮎の塩焼きなど美味しい料理に舌鼓を打ちつつ会員相互の親睦を深めた。さらに部屋に戻ってからは皆でオリンピック（柔道）に応援の歓声を発しながらの2次会で夜は更けた。

翌日はマイクロバスにて各地を移動。水しぶきを浴びながらの球磨川急流下りを体験し、球泉洞で鍾乳洞を見学した。しらかわうなぎ店での昼食は、鰻の卸価格高騰のあおりで若干さびしい内容であった。

さらに国宝・青井阿蘇神社を参拝し、幽霊寺とも呼ばれる永国寺では高山歯科医学院の講師も勤めた近代歯科医学の先駆者と言われる一井正典先生いちのい まさつねの碑を見学したのち鹿児島市内への帰路に就いた。

内容盛りだくさんの素晴らしい旅

行を企画された米良・下津両幹事に感謝するとともに、支部の大先輩の先生方がいつまでもお元気で一緒に活動できることを切に願う。

(田松裕一 記)



京 都 府 支 部

梅雨も明けやらぬ七夕の、7月7日(土)、京都東山、栗田山荘において平成23年度東京歯科大学同窓会京都府支部総会が開催された。初めに永田賢司会長より挨拶があり、京都府支部の現状と、本年度参加会議の内容についての報告、ならびに本日の審議内容についての説明が行われた。続いて中尾篤司会計より、平成23年度の会計報告がなされ、満場一致で承認された。さらに河野より庶務報告として、近畿連合同窓会支部長会議の報告と、本年11月23日に行われる近畿連合同窓会総会について、準備の進捗状況が報告された。また、総会当日は永田会長が本部理事として参加される予定であるため、西村眞司副支部長を京都府支部長代行とすることが提案され、承認された。

引き続き審議に入り、現在同窓会本部から求められている寄付行為について、京都府支部としての協力の仕方が話し合われ、賛否両論から

の様々な意見が出された。最終的には個人の裁量に任せる結論となったが、会員一同でできる限りの協力をしていこうということで意見がまとまった。

続いて宴席に移り、小雨が降り、晴天時とはまた違った表情を見せる

手入れの行きとどいた美しい日本庭園を眺めながら京料理と美酒に酔いしれ、互いの親睦を深め合い、盛況のうちにお開きとなった。

(河野多聞 記)



訂正とお詫び

会報「387号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

ふるさと自慢 裏ページ

誤：千葉光行先生 (45年卒)

正：千葉光行先生 (43年卒)

クラス会だより

クラス会開催日程

富 巳 会 (昭和40年卒)	と き	平成24年11月3日(土・祝) 18:30～
	と ころ	東武ホテル レパント東京 (6Fクロワドル)
シ チ ヤ 会 (昭和48年卒)	と き	平成25年9月7日(土)
	と ころ	東京 帝国ホテル
八 十 二 期 会 (昭和52年卒)	と き	平成24年11月3日(土・祝) 18:00～
	と ころ	東京 ザ・プリンスパークタワー東京 33階
八 実 会 (昭和53年卒)	と き	平成24年11月18日(日) 12:00～
	と ころ	東京ドームホテル 42階 ペガサス
黎 明 会 (昭和57年卒)	と き	平成24年11月3日(土・祝) 15:00～
	と ころ	東京 ホテルグランドパレス
彗 星 会 (昭和61年卒)	と き	平成24年12月1日(土) 19:00 開宴
	と ころ	東京 帝国ホテル 本館2階 牡丹の間
志 士 の 会 (平成17年卒)	と き	平成24年11月25日(日)
	と ころ	水道橋校舎, 東京ドームホテル

新 葉 会

昭和63年卒



山本 仁君教授就任祝賀会

昨年の9月のクラス会に引き続き、2012年7月28日(土)17時30分より東京ドームホテルペガサスにて、



本年4月から口腔超微構造学講座の主任教授に就任されました、山本仁君の教授就任祝賀会を開催しました。卒業後24年目の新葉会会員に



とって待ちに待った瞬間であり、とてもうれしいニュースで、全国から総勢40数名の仲間が、お祝いにかけてくれました。来賓として、当

時学年副主任をしていただいた、生理学講座教授の田崎先生を始め、同じく矢島 麗先生、解剖実習で大変お世話になった佐久間研次先生にもご出席いただき、楽しい一時を過ごすことが出来ました。

会に先立ち山本 仁教授記念講演をみんなで拝聴させていただきました。講演会では山本先生の「過去、現在、未来」と題して母校入学以来の思い出や仲間とのエピソードなどを交え楽しく、研究者として歩んでこられたこれまでの歴史を振り返っていただきました。東京歯科を離れ、いろいろな大学を渡り歩き一度は研究者の道から離れたこともあったそうですが、そんな逆境の時でもへこたれず、どんな状況におかれても心穏やかに周囲に振り回されずに、研究者として一道を貫いてきたからこそ、今回の素晴らしい機会に恵まれたのではないかと、そんな感

想を持ちました。たぶん他のみんなも同じように感じていると思います。「思いがならず、下座に生きる時、天は彼に味方する」の名言通りご褒美を下さったのだと思います。最後に現在の研究状況、母校の研究者としてそして教育者としての今後の抱負もあつく語っていただきました。これからの活躍に大いに期待したいと思います。わかりやすく歯切れの良い話し方は健在で、すばらしい内容にとっても感動しました。

記念撮影のあと、永野正司君の司会で祝賀会が始まり、田崎先生より来賓のご挨拶を頂き、佐久間先生のユーモアのある乾杯のご発声に抱腹絶倒し、楽しい宴の時間となりました。次から次へと参加者一人一人が山本先生、奥様の由美子さんを囲んで楽しく談笑したり、記念撮影をしたりと思い思いに過ごしていました。あっという間の一時でした。途

中窓から見えた隅田川の花火は、会場をさらに一層盛り上げてくれました。名残惜しく当日は予定の無かった二次会まで急遽開催することとなりました。

今回もう一つうれしいことがありました。山本先生の祝賀会を開催することで、今まで会いたくてもなかなか会うことが出来なかった懐かしい仲間が何人か出席してくれたことでもあります。そしてみな元気ががんばっていることを確認できたことでもあります。この祝賀会は、実に多くの縁を結んでくれました。そして仲間との絆を再確認させていただきました。すばらしい祝賀会になったこと、心から感謝したいと思います。

事前の準備に尽力をいただいた寺田仁志君、渡邊宇一君には心からお礼申し上げます。ありがとうございました。（松浦信一 記）



朋 友 会

平成3年卒

平成23年11月19日(土)朋友会同窓会が開催されました。今回は卒業20周年の節目ということもあり、3部構成による企画で行われました。

第1部は水道橋校舎13階において同級生による講演会が行われ、鬼澤君から「日常歯科臨床のトラブル症例に学ぶ」、太田和秀君から「変色歯への審美修復についての考察」、高梨君から「下顎第二大臼歯の欠損をどうしている?」、佐藤豊彦君から「デンタルインプラント治療における様々な骨造成術」というタイトルで発表があり、日々の臨床における注意点、様々な症例に対する苦闘と苦悩が発表されました。いずれの発表においても患者様を第一に考える誠実な姿が印象的でした。

第2部の開始時には急逝された渡辺一君への黙祷が行われまし

た。その後、第5、6学年の時に副主任としてお世話になった一戸達也先生に東京歯科大学の現状についてご講演いただきました。講演の冒頭に現在の私達の年齢が当時の一戸先生の年齢より10年位、上になっているとのお話があり、20年という時間が経ったことを強く感じました。一戸先生からは、私立歯科大学・歯学部の定員割れ問題、難しい歯科医師国家試験、これらに対する大学の対応や水道橋への移転について詳細にご説明いただきました。自分たちの子供が大学受験の年齢となっており、参加者は真剣に傾聴していました。

第3部は場所を東京ドームホテルに移し、中瀬君の軽快な司会のもと懇親会が開催されました。出席者の中には卒業以来、20年ぶりに会う人



もおり、久々の再会に学生時代にタイムスリップして話こむ者もいました。また日々の仕事のこと、子供のことなど、話題は尽きないものの、予定の時間は瞬く間に過ぎ、次回での再会を約束して閉会となりました。

今回の開催にあたり本会代表の太田拓哉君はじめ幹事の皆様ならびにお手伝いいただいた各位に心から感謝します。(村松 敬 記)



120周年記念誌編纂余話

水川 秀海（昭和34年卒）

120周年記念誌の編纂部会は平成20年5月に発足し私は同年12月より顧問として参加しました。浅学非才を省みず顧問をお引受けしたのは日本歯科医史学会や日本医史学会で活動してきた経験から同窓の皆様に歴史に興味を持っていただきたいと考えたからです。

ある大学で沿革史編纂にあたり、世界の主要大学に「大学アーカイブズとして何が最も重要か」という質問を發した所どの大学も創立時の史料という答えであったといひます。母校創立時の史料については百年史發刊以後東京都公文書館より高山紀齋直筆の設立認可願をはじめ多くの史料が發見追加されて120周年記念誌に活されました。勿論収集された資料のすべてが活用されるわけではありません。今回は高山歯科医学院関係で活用されなかった事等を中心に少しですがお話をしておきたいと思ひます。

高山は時間に厳格な人で患者予約も厳しく呢懇の間柄で患者でもあった初代文部大臣森 有礼（高等中学医学部生みの親）はこれを絶賛したといひます（奥村鶴吉：高山紀齋先生小伝）。高山は学校設立にあたり多くの情報を森大臣より得たと考へます（残念なことに森大臣は明治22年暗殺されました）。高山が学校を設立した明治20年代は鐵道網の發達で若人の中で東都遊學が流行し、また政府が公立医學校の経費を地方税で支弁する事を禁じ多くの地方公立医學校が廢校になった時代です。高山は學校設立のチャンスと考へたと

思ひます。高等中学医学部の学科課程をベースにした4年制の高山歯科医学院を開校しました。しかし生徒はわずかしか集りませんでした。これは未だ學歴の時代ではなかったからです。高等中学医学部をはじめ多くの官立校が軒並応募者が少なく文部省を悩ませています。当時の人は高い授業料を払って長期の學習の末に資格を授けられる道よりもダイレクトに試験を受けて資格を獲得することを目標したのです。しかし近代化が進み、より高度な知識や技術が要求されるようになり、諸學校令の公布で教育制度がしだいに充實して来ると學歴が重視される時代になるのです。學歴の時代が浮上するのは明治30年代で高山が血脇に學院を讓渡した頃です。生徒が集まらなくても高山は設立した學校を泡沫校にはしませんでした。國家試験の予備校的な學校として存続させました。しかし進取の氣象に満ちた高山は教育の場に常に最新なものを取り入れ内容の向上にも努力しています（120周年誌27頁参照）。さらに高山歯科医学院講義録24巻をはじめ多くの専門圖書を刊行し、近代歯科医学の諸概念をわが國の用語に翻譯しまし

た。このことは高山一門の歯科界に対する大きな功績です。

歯科医学教育機関の不足を痛感した高山は官立學校設立を國に請願しましたが後一步で実現せずこれを期に近代的教養と學校經營にセンスのある血脇にわが國の歯科医学教育の運命を託しました。継承した血脇は何が何でも學校を發展さす決意がありました。その後の血脇の行動がそのことを実証しています。

高山の學校設立と血脇の継承に関して、成医會會員（慈惠大創立者高木兼寛を中心とする會）であった高山が成医講習所（現東京慈惠会医科大學）の真似をして4年制の學校を設立したが經營困難で血脇が火中の栗を拾ったとする人がいます。高山が成医會會員であった事は事実ですが當時の學制や医療制度を生半可に理解した人の意見で高山の精神を冒瀆し母校の歴史を侮辱するものです。私達はこのような考へ方に惑わされてはなりません。歴史を深く知れば知る程常に近代歯科医学教育の道を切り拓いてきた高山紀齋先生と血脇守之助先生の進取の氣象に感服するのです。



ヒッグス粒子と高楊枝

竹内 一 紀 (昭和45年卒)

ヒッグス粒子の発見はノーベル賞級という。スイス・フランス国境近くに造られた加速装置は地下百メートル。山手線一周規模で強力な磁場から陽子を光速に加速、1千兆回もの衝突から明かされた粒子が「ヒッグス粒子」。

質量の起源、我々の生命の起源を明かす粒子で、神の粒子とも呼ばれます。歳月と巨費を投じた国際的なプロジェクトの研究の成果が「神の粒子」なら、科学の究極が信仰の世界、宗教の世界なのでしょうか。神の世界とか、仏の世界とか、あの世は本当に存在することになります。

「おまえ本当に東菌か!」と、一喝のもとに除去されそうですが、待って下さい。プロジェクトは若い科学者も大勢なのです。我々の生命が何処から来たのか、証される日に騙されてみようではありませんか。

民設する老人施設は、貧乏の中から日本の復興を支えた総定員三百有余名の終の棲家です。東日本大震災地からの定員枠を超えた入居者もあります。アンチエイジングなら結構なのですが、施設は何処も百寿者の自然増傾向です。

気になるのは、喜びも悲しみも味覚も忘れた、義歯なんぞ機能も審美も総撤去、拘直気味で眠ったままか、虚ろな開口の経管栄養者達です。施術の経緯に疑問が残る例もありそうですが、一度セットされた経

管は余病を併発するか、寿命が尽き果てるまで外せません。無論、平均寿命は押し上げてくれます。でも、生命はいったい誰のものなのでしょう。

事故に遭遇し、妻に引率された新幹線で高気圧酸素治療を受ける身となりました。時間潰しに知人の著した「論語の綴り」を持ち込むと「恕」とあります。自分にして欲しくないことは他人にしてはならないとか、真心と思いやりとか「論語」は言い古された言葉だらけです。でも、旧いのでしょうか。

“stand alone” スタンドは立つ、アローンは一人、「他に比を見ない」を「凜とした」と翻訳してあって惚れ込みました。弁慶の立ち往生

も出来ないけれど、未練はみつともない。痩せ我慢半ばでも「武士は喰わねど高楊枝」位で“stand alone”に近付けないものか。

3.11は日本中を震撼させました。本県柏崎市の原子力発電所は全部で7号基まである世界一の規模なのです。いざとなれば、運否天賦の未曾有の惨状、人類の知恵では処理不能を知らしめ、生き方の変換を思考させる3.11だったとは穿った見方でしょうか。さて、天変地異と人災の時代に「強制医療辞退」の遺言状は必携です。授かった、凜とした己の生命です。

ヒッグス粒子よ、私は何処から来て、何処へ行こうとしているのでしょうか。



「ロンバルデアの野」

この写真のような緑豊かな地下に掘られているに違いありません!



「犬の歯の治療最前線」

獣医学科中退の歯科医師 島村 大 (昭和60年卒)



犬の歯の全部金属鑄造冠

皆さんも犬や猫などのペットを飼っている方は多いと思いますが「動物も歯が命 是非愛情を歯にも」と歯科医師である皆さんは感じると思います。

上の写真は犬の歯にセットした全部金属鑄造冠の写真です。

どのように作成しているのか？犬もカリエスや歯周病になりやすいのか？疑問がいっぱい沸きませんか？

そこで今回は、犬の歯の治療最前線を報告させていただきます。

その前に私のことですが、今から約30数年前の東京歯科大学1年時に、某大学獣医学科1年にも通学していました。

そんなことが出来るのか？

詳細は誌面関係上お話できませんが事実2つの大学に通学していました。残念ながら某大学獣医学科は成績でなく出席日数不足で1年で中退になりました。またなぜ獣医学科に進んだかという、父が獣医師として開業していて興味は持っていたからです。

さてその後、東京歯科大学を卒業し私が横浜で開業していた頃、あるとき父より「超音波スケーラーは何処のメーカーのを使用しているか」と聞かれ返事をしたところ、「貸してほしい」と言われました。

なんと、犬の尿道結石の治療にスケーラーの先の器具を換えれば使用できるとのこと。

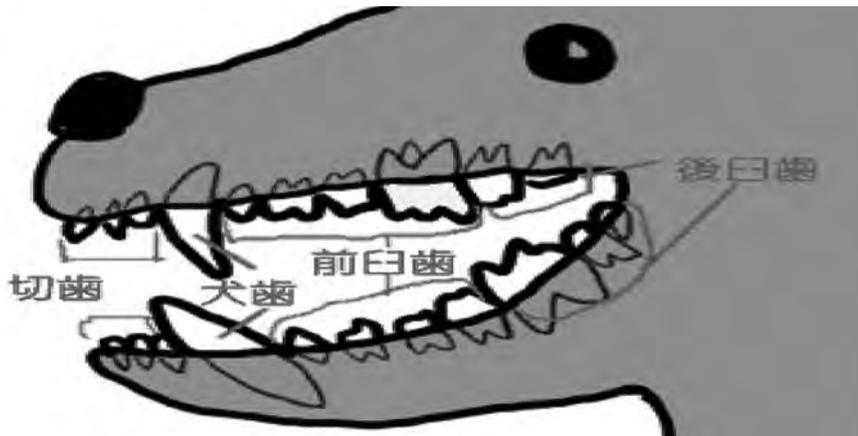
その時から、またいつかは犬の歯及び口腔の勉強をしたいと思い、約10年前から獣医さんがつくっている「日本小動物歯科研究会」で勉強させて頂いているのです。

獣医さんでも歯科や口腔外科診療をしている先生は、残念ながらまだまだ少ないというのが現状ですが一生懸命勉強なさっています。

また、なんと犬の歯科診療の器具や材料は、殆んどわれわれが普段使用しているタービンやエンジン、リーマー、スケーラー、デンタルX線や薬剤などと殆んど同じなのです。

ではまず、基本的な事を説明させて頂くことにしましょう。

■犬の歯の名称と本数

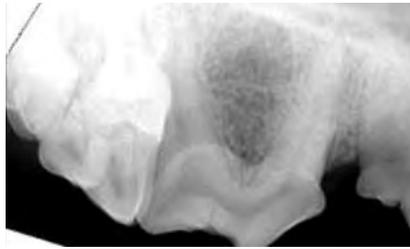


上顎)	切歯 6本	犬歯 2本	
	前臼歯 8本	後臼歯 4本	
			計20本
下顎)	切歯 6本	犬歯 2本	
	前臼歯 8本	後臼歯 6本	
			計22本
合計			42本

■ 歯科治療の一例：硬い物を噛むことによって上顎第4前臼歯の頰側が剥がれるように破折した症例



赤く見えるのがもちろん歯髄であり
歯髄炎や歯髄壊疽になる



口腔内 X 線で破折の範囲を確認
保存可能と診断



ダイヤモンドバーを使用しタービン
で開口



リーマーやファイルで拡大形成



ガッタパーチャーによる加圧根充



3 根管加圧根充確認



LED 光重合照射器 CR 充填



CR 充填

どうでしょうか。我々が普段治療している方法や使用器具、薬品も同じであることが理解して頂けたと思います。

ではここで質問です

- Q 1. 犬の歯と人間の歯はどちらが
カリエスになりやすいでしょ
う？
- Q 2. 犬の歯と人間の歯はどちらが
硬いでしょう？
- Q 3. 犬の歯と人間の歯はどちらが
歯石が付きやすいでしょう？

回答は、

- A 1. 人間の方がカリエスになりや
すい。
 - ①口腔内の PH の違いによ
る。犬はアルカリ性である
 - ②唾液成分の違い
 - ③歯の形態の違い

- A 2. 人間の歯のエナメル質の方が
20%～30%硬いといわれてい
る。
よって犬に硬いおもちゃ等を
噛ませていると上記の症例の
様な歯牙の破折が起きるので
ある。
- A 3. 歯石の付きやすさは、犬も人
間も同じである。普段の食生
活に起因する事の方が大きい
と思われる。
またペットフードのみだと歯
石が付きやすいと言われてい
る。

以上まだまだ歯周病について等お
話したいことが沢山ありますが、機

会があればまたお話したいと思いま
す。

診療の疲れを犬達に癒されている
方も多いと思いますが、将来、そん
な愛犬と人間との両方を診れる歯科
診療室を獣医さんと一緒に作り、現
代のストレス社会打開の一助になれ
ばと考えています。

最後に、歯科医師である我々が犬
や猫の歯科治療行為をすると獣医師
法違反になりますのでご注意を。(獣
医師の監督官庁である農林水産省に
確認済)

追記：今回の治療写真は、私の獣医
師の仲間より提供して頂きまし
た。

庶務日誌

- 9月
- 1) 理事会
9月29日(土) 第5回理事会
- 2) 委員会
9月3日(月) 事業推進部大学連携委員会
7日(金) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
10日(月) 広報部広報委員会
10日(月) 同窓会・会務運営委員会
11日(火) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
11日(火) 事業推進部シンクタンク委員会
12日(水) 事業推進部学術委員会 (研修委員会)
13日(木) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
13日(木) 広報部広報委員会(ホームページ打合せ)
18日(火) 事業推進部 (企画会議)
21日(金) 若手同窓との懇談
24日(月) 同窓会・会務運営協議会
24日(月) 事業推進部学術委員会 (企画)
25日(火) 事業推進部 (大学連携・若手ネットワーク合同講演会運営委員会)
27日(木) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
27日(木) 事業推進部保健委員会
- 3) 出張
9月2日(日) 関東地域支部連合会総会
矢崎会長, 高橋専務理事, 杉山理事出席
学術講演会 講師・嶋田昌子先生 (横浜
シティガイド協会)
2日(日) 東海地域支部連合会総会
佐瀬・梅村副会長, 太田理事出席
学術講演会 講師・安部龍太郎氏 (歴史
小説家)
29日(土) 長野県支部合同総会
梅村副会長, 阿部理事出席
学術講演会 講師・片倉 朗教授(母校)
- 4) 事業
9月8日(土) TDC インプラントセミナー・マスター
コース
9日(日) TDC インプラントセミナー・マスター
コース
13日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯
会長と同窓会役員との懇談会懇親会
27日(木) 同窓会主催全国ゴルフ大会
- 10月
- 1) 委員会
10月2日(火) 渉外部渉外委員会
2日(火) 事業推進部学術委員会 (研究部)
3日(水) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
5日(金) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
6日(土) 全国歯科大学同窓・校友会懇談会
矢崎会長, 宮地副会長, 高橋専務理事,
小林常任理事出席
9日(火) 事業推進部若手ネットワーク委員会
10日(水) 広報部広報委員会
10日(水) 事業推進部学術委員会 (研修委員会)
16日(水) 事業推進部学術委員会 (研究委員会 B)
17日(水) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
22日(月) 事業推進部学術委員会 (企画)
25日(木) 総務関係打合せ
27日(土) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
29日(月) 同窓会・会務運営協議会
30日(火) 事業推進部学術委員会 (研究委員会 B)
31日(水) 総務・厚生部厚生委員会
- 2) 出張
10月11日(木) 六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会
13日(土) 九州地域支部連合会総会
矢崎会長, 高橋専務理事, 田部理事出席
27日(土) 北多摩支部学術講演会 講師・佐藤 亨
教授 (母校)
- 3) 事業
10月1日(月) 全国社会保険指導者懇談会・懇親会
6日(土) TDC インプラントセミナー・マスター
コース
7日(日) TDC インプラントセミナー・マスター
コース
27日(土) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー
No.5 イブニングセミナー3 (「開業医が
取り組む摂食嚥下リハビリテーション
(入門編)」～診療室からはじめる口腔機
能向上へのアプローチ～)
28日(日) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー
No.6 臨床実習セミナー2 (「たったこれ
だけ! MTM!」～タイポドントでマス
ターする基本の『き』～)

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略・届出順)

- | | | |
|------------|------------------------------------|-----------|
| ●昭 24 卒 | 佐々木 裕 寿 (88歳) | 24. 7. 29 |
| 苦小牧支部 | 〒056-0017 日高郡新ひだか町静内御幸町1-1-75 | |
| ●昭 34 卒 | 宇 都 尚 武 (89歳) | 24. 8. 2 |
| 豊島支部 | 〒170-0012 豊島区上池袋4-8-10 | |
| ●昭 22 卒 | 青 木 修 (87歳) | 24. 8. 3 |
| 愛知県支部 | 〒468-0045 名古屋市天白区野並4-250 | |
| ●昭 29 卒 | 原 田 剛 直 (83歳) | 24. 8. 21 |
| 滋賀県支部 | 〒520-1636 高島市今津町舟橋2-8-9 | |
| ●昭 25 卒 | 星 藤 哉 (82歳) | 24. 8. 21 |
| 新潟県支部 | 〒946-0007 魚沼市四日町147 | |
| ●昭 17.9 卒 | 原 学 郎 (90歳) | 24. 8. 25 |
| 愛知県支部 | 〒467-0004 名古屋市瑞穂区松月町1-11 松月アイリス401 | |
| ●昭 27 卒 | 松 前 久 子 (82歳) | 24. 8. 30 |
| 愛知県支部 | 〒491-0851 一宮市大江2-9-11 | |
| ●昭 41 卒 | 林 忠 司 (71歳) | 24. 8. 31 |
| 横須賀・鎌倉支部 | 〒238-0017 横須賀市上町3-15 | |
| ●昭 39 卒 | 鈴木 梓 (72歳) | 24. 9. 1 |
| 熊本県支部 | 〒860-0047 熊本市西区春日町6-5-23 前田歯科 | |
| ●昭 47 卒 | 立 川 淳 一 (65歳) | 24. 9. 2 |
| 大分県支部 | 〒879-2441 津久見市中央町18-12 | |
| ●昭 28 卒 | 尾 上 吉 之 (85歳) | 24. 8. 31 |
| 千葉県支部 | 〒270-1132 我孫子市湖北台1-5-11 | |
| ●昭 33 卒 | 飯 嶋 謙 治 (81歳) | 24. 9. 8 |
| 横須賀・鎌倉支部 | 〒237-0063 横須賀市追浜東町3-27 | |
| ●昭 35 卒 | 長谷川 汎 (80歳) | 24. 9. 11 |
| 新潟県支部 | 〒950-2001 新潟市浦山1-1-10 リバーサイド青山401 | |
| ●昭 16.12 卒 | 宮 下 堯 人 (92歳) | 24. 9. 16 |
| 南信支部 | 〒396-0025 伊那市荒井3448-7 | |
| ●昭 25 卒 | 川 上 正 義 (87歳) | 24. 9. 18 |
| 目黒支部 | 〒153-0053 目黒区五本木3-24-7 | |
| ●昭 47 卒 | 菊 池 亮 三 (70歳) | 24. 9. 14 |
| 宮城県支部 | 〒987-0162 遠田郡涌谷町本町86 | |
| ●昭 12 卒 | 保 尾 五 郎 (98歳) | 24. 9. 13 |
| 兵庫県支部 | 〒669-3601 丹波市氷上町成松235 | |
| ●昭 16.12 卒 | 柏 村 彰 (92歳) | 24. 9. 19 |
| 広島県支部 | 〒737-0045 呉市本町3-1-19 | |
| ●昭 22 卒 | 福 田 信 芳 (88歳) | 24. 9. 30 |
| 芝支部 | 〒108-0073 港区三田4-19-22 | |

小船井尚子さんを偲んで

新葉会(昭和63年卒)



平成23年9月24日、我が新葉会のクラス会がいつもの東京ドームホテルで行われました。

毎回、小船井さん

がツインの部屋を予約してくれて一緒に泊っていたのですが、チェックインした時に、彼女から難しい病気で厳しい状況であることを告げられました。その日から祈るような思いで彼女の回復を願っておりましたが、平成24年3月3日午前9時2分、48歳の小船井尚子さんは逝ってしまいました。

思えば大学3年で出席番号が隣になってから30年近い付き合いになります。学生時代はもちろん、卒後勤務医になってからも時々食事をしな

がら愚痴を言い合ったりしていました。お互いが地元に戻り、結婚し出産しそして開業医として働きながら、クラス会で会ったり電話やメールで子どもの成長や仕事のことを話したり…ずっと続くものだと思っていたのに、悲しくて悔しくてなりません。

彼女は一見すると、ふんわりとした雰囲気でしたが、一本芯が通った強さを持ち、何に対しても前向きに潔く取り組んでいました。歯科医師としてお父様のあとを継いでお母様を支え、娘さんをしっかりとしたお嬢さんに育て上げ、そして病気がわかってからも決して弱音を吐かずに病に立ち向かい、逆に私たち友人を心配し励ましてくれていました。

最後にお見舞いに行ったのは去年の11月の末。看護師さんにシャン

プーをしてもらい、「気持ちいい〜」と笑った笑顔が忘れられません。最後のメールは亡くなる10日前。私の娘の私立高校合格を祝福してくれたやさしい文面でした。おそらくとてもつらい状態だったでしょうに…彼女の闘病生活のメールは永久保存にし、宝物になりました。

一時退院して娘さんと一緒に大好きなジャニーズの舞台を見たと喜び、来年の娘さんの成人式の着物を選んだそうですが、春になったら長岡の近くの温泉に一緒に行こうと言っていた約束は果たせませんでした。

「尚子、お疲れさま。今度また会いに行くね。」

合掌

(昭和63年卒・

古川(旧姓葛西)由美子 記)

田口 亮君を偲んで

新葉会(昭和63年卒)



同級生の田口亮君が、2012年6月3日に永眠されました。48歳でした。私と田口君が初めて出会ったのは今

から約30年前、東京歯科大学が稲毛に移転して最初の新入生として同じクラスになった時でした。私が彼の公団の近くに下宿を始めてから、彼は私の下宿によく泊まるようになりました。彼は水泳部のエースで、背が高く、泳ぐ姿は本当に格好良かった。卒業後、彼は母校の歯科矯

正学講座に、私は歯周病学講座に残ってしばらく同じような付き合いが続きましたが、彼は私より先に大学を辞め、有名な根津矯正歯科に勤められたと記憶しております。

その後もお子さんの小さい時には家族で一緒に出かけたこともありましたが、ここ最近は連絡をとっておりませんでした。それがたまたま昨年の夏に私が思い出したように彼に連絡をとり、久しぶりに食事をした際に彼の病気のことを聞かされ、大変驚きました。ただその時の彼は術後の抗がん剤治療も一段落し、だいぶ体力も回復していたのであまり違

和感を覚えませんでした。今年のGWに彼からまた入院したとの連絡があり、お見舞いに行きました。痩せ細ってしまった彼を見るのは辛かったけれど、その時まだ彼は「のんびり頑張ってた元気になるよ」と言っていたのに…。

あんなに元気だった彼のあまりに早すぎる死に、同級生の奥様と二人のお嬢様の気持ちを思うと、今も悲しみと悔しさが消えません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

(昭和63年卒・穂坂康朗 記)

◆投稿規定

※平成24年度より、偶数月発行から年間5回（2，6，8，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投稿字数

投稿欄	内容	文字数, 備考
追悼	故人の追悼文	500字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想, 詩, 短歌, 時評など	1編1,600字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,600字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に1,600字より減らして下さい。 全員の集合写真は900字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は400字相当、数人のスナップ写真は200字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	-	-	FAX 番号	-
投稿先 <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/> 印チェック	同窓会会報	<input type="checkbox"/> カラーグラビア <input type="checkbox"/> ふるさと自慢 <input type="checkbox"/> クラス会だより	<input type="checkbox"/> 追悼 <input type="checkbox"/> すいどうばし <input type="checkbox"/> OB, グループ・サークル	<input type="checkbox"/> 支部のうごき <input type="checkbox"/> いなげ
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

◆へんしゅうこうぎ

- ★ 新執行部になり、同窓会の広報委員会に参加させていただくことになりました。佐々木（阿左見）葉子です。全国の先生方により良い多くの情報をお届けできるよう頑張りますので、よろしく願いいたします。
- ★ 日本中が感動に沸いたロンドンオリンピックが終わり、記録的に暑い夏も過ぎようとしています。9月も末になり、やっと過ごしやすい季節になりました。我が家のベランダのハイビスカスも、あまり暑すぎるのは苦手なようで、今になって綺麗な花を咲かせてくれています。
- ★ 先日、新しいPRESIDENTの「プラチナ資格が手に入る学校：実力ランキング」という記事に、とても嬉しい内容が掲載されていました。
【歯科医師試験の合格者は前年より37人減の2,364人。合格率71.1%は昨年とほぼ同じ。国公立がひしめく中、昨年10位の東京歯科大が合格者・合格率ともに他を圧倒。近年稀にみる高合格率97.4%を叩き出し、私学の意地を見せた。：PRESIDENT 10・15号より】東京歯科大学の同窓としてとても誇らしく思います。10年後20年後、歯科界のオピニオンリーダーとして活躍されることを期待します。
- ★ 今執行部より、新しく「若手ネットワーク委員会」が発足しました。
ともすれば、同窓会や母校と縁遠くなってしまう若い先生方の、日常の臨床だけでなく歯科医師としての将来設計など色々な場面で、少しでも若い先生方の役に立つ委員会になれば良いなと思っています。
- ★ 先日、このような若い先生（卒後5年まで）との懇談会が開催され、行ってきました。
同窓会に対する意見や希望など色々な話を聞くことが出来ましたが、その中で、ちょっとショックだったことは、多くの先生が同窓会報やHPを知らないということです。…こんなことではいけません。もっともっと、同窓会を身近に感じていただけるように工夫しなくてはと、実感しています。
- ★ ということで、現在、広報委員会では同窓会HPの改修作業を行っています。
若い先生方には、会報よりも、HPやFBの方がより身近に感じ、感覚的に受け入れていただき、より早く情報を入手していただけるのではないかと思います。
是非、皆さまも、「東京歯科大学同窓会HP」やFBの「東京歯科大学同窓会広報部」にお立ちよりください。
- ★ 9月27日、同窓会のゴルフコンペに参加させていただきました。
10年以上ぶりのゴルフは体力的にはかなりキツイものがありましたが、秋の初めの爽やかな風を感じ、とても気持ちの良い1日を過ごすことができました。一緒にラウンドしてくれた先生、コンペを企画・運営してくださった先生方に感謝です。ありがとうございました。
- ★ 9月末になり、ようやく過ごしやすい季節になりましたが、夏の疲れがドッと出てくる頃だと思えます。この頃は、「セプテンバーリスク」と言って、急激な気温の変化に対し、身体とくに循環器系に影響を及ぼしやすいのだそうです。先生方には、どうか体調を崩されませんよう、お気をつけください。（佐々木葉子 記）

広報部広報委員会

委員長 白田 準
副委員長 福井 雅之
 山口 雅史
委員 古澤 成博
 佐々木葉子
 志村 圭子
 渡邊 宇一
 島田 篤
 西村 哲雄
 宇佐美 貴弘
 小貫 飛鳥
 横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成24年10月10日 印刷	発行人 小 池 修
平成24年10月15日 発行	編集人 白 田 準
東京歯科大学同窓会会報 第388号	東京歯科大学同窓会
同窓会ホームページアドレス	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
http://www.tdc-alumni.jp	電話 (03) 5275-1761
	FAX (03) 3264-4859
	印刷所 一世印刷株式会社
	〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
	電話 (03) 3952-5651 (代)